
新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

camiyu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

【Zコード】

Z9742Z

【作者名】

camiiyu

【あらすじ】

鷺羽さんの実験中に美星さんによる暴走でエヴァの世界に飛ばされた天地君の物語です
新世紀エヴァンゲリオンと天地無用！魍魎鬼のコラボです

受難（前書き）

物語に対する指摘等は受け付けますが、批難等は受け付けません
ご理解の上お読みください

受難

新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

ある日の鷺羽ちゃんの実験室のこと

鷺羽さんお手紙が来てますよと美星さんが実験室に
来ました その時天地君はいつものことく

鷺羽ちゃんの実験に付き合わされていました

ゼ~~~~~つたいあんたはそこににある計器に触っちゃだめだと
念を押して 手紙を読み始めました

またかと天地君はあきらめの境地で

一人の様子を眺めていました

は~~~~~ああ

また何か起こるんじゃないかと、あきらめつつ
心配してたところ やっぱり何か起こりました
お約束ですね 美星さんはボタンを押しました
あらららららららららららららららららららら
と実験中の計器が暴走を始めました
何やつてるのと鷺羽ちゃんがあわてて計器をいじり始めましたが
暴走を始めた計器は止まりません

天地君はあきらめの表情で巻き込まれました

やつぱり~~~~~こうなるのか~~~~~

煙が晴れるとそこには天地君がいませんでした

鷺羽ちゃんはキーボードを操作しつつ天地君の捜索を開始し始めた
した

あらゆる次元をもちろん自分の神としての能力
を駆使して

津名魅はもちろん訪希深にも協力してもらつて

あらゆることを試して

やつとのことで見つけることができました

それは それは

新世紀エヴァンゲリオンというアニメの世界にいる痕跡を見つけることができました

といつてもまだこちらからのアクセスの仕方が見つかっていないのでこちらからの呼び掛けはできませんが 見つけたいということをみんなに話しました

美星さんあなたという人はきいいいいいいいいいい（阿重霞さん）
みほしてめえええええええええええええええ（轟呼さん）

鶯羽おねえちゃん天地にいちゃん大丈夫だよね
(砂沙美ちゃん)

みやみやみやみや（天地さん大丈夫でしょね）
(轟ちゃん)
ほほほほまあ大丈夫じやうて
(遙照こと勝仁さん)

天地様のことですからめったなことはないと感じますけど（ノイケさん）

面白いことになつてきましたね水穂
いい修行になるだろう天地ぬわつはつはつ
(瀬戸口さま)
(阿主沙樹雷王)

いい研究材料になるわ～～～

天地殿無事お帰りを

天地ちゃんがんばつてね～～～～～

柘木家の面々はすぐ心配します、

樹雷王家の方々は心配半分面白半分です
といつよつに悲喜こもごもですが

そして鶯羽ちゃんの出番です

任せなさい 宇宙一の天才科学者に任せなさい
と胸を張りました

次は天地君のお話になります

中（前書き）

シンジと天地のお話

中

西暦2015年の世界に飛ばされた天地君です
ある人物の精神に憑依することになりました

飛ばされた当初はあわてていたため状況判断ができませんでしたが
時間がたつ間に平静を取り戻し、ある人物との邂逅を果たすことに
なります

ある人物は大けがをし、精神世界の中で天地君との邂逅を果たします
もちろんある人物も混乱していましたが時間がたつとともに
平静を取り戻しました

君は誰だい、俺は杠木天地っていうんだけど
僕は碇シンジといいます 怯えながら名前をいいました

じゃあこれからシンジ君と呼んでいいかな

はい、ではぼくはどうよんだらいいですか

そうだな

ちなみにシンジ君は何歳かな

僕は14歳です

おれは17歳だ

じゃあ天地さんとよびますね

うんそれでいいよ

状況をきこうかな

今病院にいるみたいだけど、なぜ病院にいるのかな
ええっと

父さんによられて
H七六とかいへ口かく上みたしたものに乗せら
れて

しょうか

いろいろあるんだな

天地さんはどうして僕の中に来たのですか

実はある人の実験中の暴走にまきこまれて、 、 、 、 、 、 、
あつはつはははは

あせりせせせ 王ノハハハハハ

春日山房集

ええ父さん」に捨てられたと懲りたが、また呼ばれて

そこへかへりかへたんたね

泣き止んだところで

俺にできることがあれば何時でも頼つていいんだよ
といつても精神の中でですが

天地さんでお兄さんみたいだ

裏切らない人みたいだ

父さんみたいには

シンジ君は本当にうらうらにあつてきたんだな
あんなに泣くほど、・・・、

シンジ君も俺みたいにトラブルに巻き込まれやすい体質なんだな
これは俺が支えないとつぶれてしまうかもしね
弟がいたらこんなかもしね

よしシンジ君を支えてやる

まずはけがを治そう

天地君の備わった力

光鷹翼を開ける力を使って
目に見えない光鷹翼でシンジ君のけがを治しました

中の2

精神に肉体がリンクすることは天地君には当たり前です（この物語だけの設定）

えええええええどういうことですか

俺の住んでる世界

僕はその異世界では樹靈といわれる異世界でいじかが

僕なんかとは身分が違う遠い世界の方なんですね

・・・・・

ちよつとちよつとシンジ君

自閉モードに入りかけの時に天地君があわてて言い訳をしました

落ち込まないでよシンジ君

皇族だといつても俺が住んでる地域では
まつたくの一般人として暮らしてたんだから

が、で俺がそのことを知ったのはつい、今日のことだ。だから
神社の神主のじつちゃんがすんでる神社の奥の院の祠で

龜呼という宇宙海賊が封印されてね

興味半分でその封印を解いたことが始まりで

阿重霞さん 砂沙美ちゃんという女人が

俺が住んでるところにきて

ちなみに 魚呼と阿重霞さんが大ゲンカするは、宇宙に連れ出されるはで

阿重霞さん 砂沙美ちゃんは俺のじゅちゃんの妹で
第一皇女 第三皇女なんだ

いろいろあって落ち着いたところ

美星さんとし、ギャラクシー・ボリス（GP）の1級刑事かぎで
神我人いう宇宙海賊が攻めてきてやつと

俺が皇国の血をひくものだとわかり

神我人をせつけたそれかららしいぞあつたよ

光鷹翼という力は俺だけの力で起こしてるんだ

シソシ君を治した力も光鷹翼と
攻撃も防御も毎ペキードでいる口

といつても、本当に危機が起きないと

発揮できないけどね

だからね

シンジ君よく聞いてね

おれは確かに一般人とは言えない力を持つてるけど
純粹に人間なんだよ

ただの 人間なんだよ
覚えておいてね

力があるうつとも、姿形が違つても、生まれがどうかなんて

些細なことなんだよ

自分が人だと持つたらとことん信じてあげなよ

これからえあう人々を信じてあげてほしい シンジ君

これはおれが今まで生きてきて実感したことだから

天地さんいや天地兄さんて呼んでいいですか

いいけどどうしたの？

僕の目標になつてください！

お願ひします！

いいよおれも弟ってほしかつたから

よろしくお願ひします天地兄さん

こちらこそよろしくお願ひしますシンジ
素敵なお顔だねシンジ

男の俺でも好感が持てるね

ところで天地兄さん

阿重霞さん美星さん砂沙美ちゃん馳呼さん

女の人がばかり出てきますけど
どういった関係なんですか

ええつとどういつたらいいのかな、・・・・・

恋人なんですか皆さん、・・・・・

恋人ではないんだけど、・・・・・
好きつ、・・・・・・・・・・何言わせるんだよシンジ

あはははは兄さん照れてる、・・・・

怒るよシンジ

うつうん

話を変えるぞ

シンジはH'P'KA といつものに乗せられたといったね
どうこうした経緯でそうなったのかな

4歳のころ父さんに捨てられて

おじさんという人のところに預けられて

そこで暮らしてたんだけど

突然父さんからここに来いといつ手紙がきて

第三東京市の駅について

葛城さんという女の人がきて

父さんはネルフといつところで働いていることを聞かされて
車に乗せられてネルフ本部連れ込まれて
赤城さんという女性がきて

(「このがそな」)

(「の子が適格者のリツ」)

(「、サードチルドレン」)

何のことかわからず聞いてたんだけど

サードチルドレン 適格者 何話してるのかな

暗いところに連れてこられ
いきなり明かりがついて

ロボットの顔が現れた

びっくりしてるところに

父さんがきて

お前が乗れと言つてきた

そんなのできないよと言つたら

お前には失望したとか言つて

上で白髪のおじいさんになんか話してた

レイを呼べとか言つてきた

ストレッチャーに乗せられた女の「」がきて
ものすごい大きがしてゐるに
無理やり起きそうなので
僕が寝ていいよと言つて

父さん、僕が乗ります！

女の子がけがしてゐるもかかわらず乗らうとしてゐるに

僕がうじうじしてたらだめだから

それから、赤城さんが動かし方を教えてくれて
無我夢中で戦つた
そして爆発で氣を失つて
天地兄さんと知り合つた

そつかシンジ

とつあえずわかつたよ

これからどうしようか、相談しよう

まず、俺がシンジとどうかしてゐることは
内緒にしておこう
疑われたくないだろ「」
闘いになつたときは、俺がアドバイスできたら
アドバイスしよう

わかりました兄さん

後はその時その時きめよう

シンジに田覚めの時が来たようだ

またあとでな

はい兄さん

中々のう（後書き）

次はシンジ君が曰覚えます

思わぬ珍客（前書き）

あけましておめでとうございます
今年も拙い小説を「ひーき」

天地世界ではおなじみにひとをわがせな天才科学者の登場

思わぬ珍客

目覚めたシンジ君
お約束のお言葉

知らない天井だ シンジ
知らない天井だな 天地

あつあたまに包帯が巻かれている そつか頭から血を流してたって
兄さんいつてたな

今天地君とはリンクしてないんです
呼び掛けたらリンクが再開する約束だそうです

けがは兄さんが直してくれたからいいんだけど
カモフラージュしてないといけないから
医者がいいと今まで

つけてるけど
少し気になることがあるから ナースステイション
に行こうとおもう

ナースステーションにきました
すみません

は〜〜〜い何かな〜〜〜〜にやにや
カニの形の髪の毛をした看護婦さんがきました（言わずと知れた
の方）
どうしたのかな 天地殿

え
シンジ

誰ですかあなたは
鶯羽ちゃん o r z
天地

驚いてる一人をしり目ににやにやしてゐる看護婦さん

とりあえず病室に逆戻りです

天地兄さんの知り合い見たいだから天地兄さんに任せよう

僕の体を天地兄さんに一時任せて意識交換をしました
もちろん皇家の力で

鷺羽ちゃんいつたいどうしてここにこれたの
私に不可能はない わつはは なんたつて

宇宙一の天才科学者だから 胸を張る看護婦姿の鷺羽

天地殿のアストラルを探してきました

あらゆる次元あらゆる要素を探査して

ちなみに、私の今の姿はアストラルボディだから

天地世界ではおなじみですね、

ちなみにシンジの天地殿以外は見えてません

幽霊みたいなものかな シンジ

みんなはどうしてるの鶯羽ちゃん 天地
そりや 大慌てでさ

あえかどのはヒステリーを起こすは
ささみちゃんしんぱいして寝込むは
ノイケどのは平然と家事をこなしえる
ただし 心配してるけど

勝仁殿は相変わらず飄々としてる

りょうこは以下同文

美星殿はりょうこに半殺しされてる
じゅらうい王家の方々は面白がってる

でもまだ見つかったことは話してない
でも皇家の木々を通して
うすうすはしつてるかもね 瀬戸どのは

これからのこと話をし合いましょう 鶯羽

シンジが教えてくれたことを包み隠さず鶯羽に話す天地

シンジを助けていこうと思つ

天地兄さんにお任せします

任せなさい 宇宙一の天才科学者プロフェッサー鷺羽に
かかればちょろい問題だ！

しんぱいだな、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 天地

あはつあははははつはつは 放心するシンジ

中華書局影印
新編卷之二

これからは天地を通して鷲羽と会話するシンジです

シリアルアスになるかラブコメになるか
お楽しみお楽しみ～～～～～～～～～～

2

思わぬ珍客（後書き）

人物の名前につづけてるかぎかっこを省略します
皇家の方々のお名前はすみません変換しづらいので
平仮名とさせていただきます

レイ (前書き)

レイとの会話です
ミカトの再燃場

レイ

そうだ昨日の大けがした女の子のところに行こうと思つてたんだ
そのためにナースステーションに行つたんだつ
逆戻りで病室のもどつたんだ

その子なら隣の病室にいるよ 鶯羽

え そななんだ

お見舞いに行かなくぢや

けが自体は大したことはないんだけど 鶯羽

骨折や内臓損傷を大したことはないと言い張る天才科学者
すぐに直せるからね でたらめなこと言つ 鶯羽

いや～～～面白い素材だつたから もう完治をせひやつた

え シンジ

でも見た田は大けがしてる状態にカモフラージュをせてる 鶯羽

面白いね りょうじとおなじだったよ

りょうじはね 私の卵子と宇宙生命体マスとのハイブリッド
いわゆる娘さ 鶯羽

じゃああの女の子もそなんですか シンジ

そう 使徒リリスと君のお母さん 碇コイ殿の遺伝子を組み合わせた
ハイブリッド生命体 でも人間だよ

ちなみにシンジ殿との血のつながりはないよ 兄弟じゃないよ
あん～んなことやこ～んなこともできるよ
もちろんうふふふふふ

鶯羽

昨日も言つたと思うけど
力があるのも、姿形が違つても、生まれがどうかなんて
些細なことなんだよ
自分が人だと持つたらとにかく信じてあげなよ
これからえあう人々を信じてあげてほしい

天地

わかっています兄さん

さてお話はまたあとで
御姫様に会いに行きましょう 鶯羽

こんこん

こんにちは
中をのぞく シンジ

起き上がってる少女

だれ

ええっと 僕は碇 シンジ

入っていいかな

勝手にすれば

おおおとへるシンジ

けがの具合はどう

大したことはないわ

確かに完治してるんだから大したことはないな
見た目は大きがってるんだから
これがカモフラージュとは思えない出来映え

碇つて言つたわね 指令の知り合い?

鬱子
子鳴
子共
表那 · · · · · 黑照影等之次第女

あの もしもし きみ?

なに？

名前
教えてくれる?

レイ 綾波 レイ

レイさんっていうんだ

レイの顔を見てるシンジ

何か用？

隣に入院してるんだ また来てもいいかなレイちゃん

かまわないわ

ほつ シンジ

また明日来るね

わよひなり

できればまた明日つて言つてほしいな

それは命令？

いや 僕のお願いだつよ

じぱりく熟考のレイ

了解

また言つね

また明日 シンジ

また明日

レイ

きれいな女の子だなレイちゃんは

笑顔見せてほしina どんな笑顔なんだらif

そこに見舞いに来た葛城ミサト

あれへシンジ君どうしてレイの病室から出できたのかな にゅにゅ
してるミサト

ええっと昨日大けがした女の子が気になつて
ナースステイションできいたんです

どうだつたシンジ君 かわいい子でしょひょつと無表情だけど
惚れたのかな? からかうミサト

そんなんじゃありません! 真つ赤な顔をしてるシンジ
怒つて行つても説得力がないシンジ

ただのお見舞いです!

自分の病室に帰つてしまひました

あちやーーーからかいすぎたミサト

まついつか

からかうネタを仕入れたミサト まるでどこかの鬼姫みたいな
顔をしていました

今日はいろいろありすぎました 早く休みますね

兄さん 鶯羽さん

了解 天地 鷺羽

鷺羽ちゃんにお願いあるんだ

シンジにはあまりおかしな実験等は
しないでほしい

俺とは違つてあちらのことはあまり話してないから
無用な混乱はおこしたくないから

わかつてゐる天地殿

俺自身のこととか家族構成ぐらいしか
話してないから

遺伝子情報くらいしか採取しないを天地殿

しかし興味は死きないねこひらは

ネルフとか言つたね

おもしろいことが始まりそうだ

科学者の血が騒ぐよ

あーあシンジできるだけかばうからね鷺羽ちゃんから

レイ(後書き)

レイの素性を知るシンジ君
ミサト再登場でもこの间的カーテンはあのカーテンです
ネタバレになるのでこれまでにします

HKA (前書き)

初号機に入り込んだ鷺羽
どうなることやら

Hガア

Hヴァの中に入った鷺羽ちゃん

一つの意識に気が付きました

一つは子供のような意識
もう一つは大人の意識

起きてきた二つの意識

子供のまではもう一度眠らせて
おとなのはまでは眠りさせました

話があるからおこしました

私の名前は白眉鷺羽

あなたの名前は？

碇 コイと申します

ではコイさんとよぶわね
あなたなぜこの中にいるの？
事情はあるのは分かつてゐ
なぜ自分の子供を捨ててまでこの中にいるの？
自分の子供はかわいくないの
どんな仕打ちを受けたことは知つてゐるの？

答えなさい 碇 コイ

え ビウビウヒトですか？鶯羽さん

いいわ話してあげる

あなたのご主人の碇ゲンドウは自分の子供を遠いほとんど他人に近い親戚に預けたのよほんのはした金だけ渡して 養育費すらも渡さずに

えつそんな馬鹿なゲンドウさんに限ってあんなにシンジをかわいがっていたのにどうして どうして

涙ぐむコイ

シンジ殿がどんな境遇に陥ったか

あなたにわかるの？

4歳の子供が親に捨てられたなんて

それも両親に

どんなにさびしかったでしょうね

どんなに心細かったでしょうね

親ならどうしてそんな仕打ちができるの

まして親戚といつても赤の他人に近い関係なのに

4歳のころから家事手伝いをさせられて料理がまずければせつかん いろんなことに

シンジ殿は耐えてたのよ

あなたが迎えに来てくれるのことを信じてね心の中でね 顔には出さず

耐えてたのよ

拳句の果ては プレハブ小屋におしごめられて

よくやめたりなどいたわね
のそれ」

何が人類のためよ、何がシンジに明るい未来がなんてよく言えたものね

涙ながらに話す
鶯羽

自分のことに置き換えて話す鷺羽

旦那の親こ無理やつ引き取

卷之三

جعفری، نظریه انتخاباتی

ਪੰਜਾਬ, ਪੰਜਾਬ, ਪੰਜਾਬ, ਪੰਜਾਬ

ג'נ'ר'ל'ס

詐してシンジ 詐して シンジ

愚かなこの母親を

わかつたわねユイさん

あなたのやることば

あなたはこの中でシンジ殿を守りないと困るわよ

涙ながら泣くなずくコイ

許すまじ ゲ ン ド ウ

ゆるさない

私はあちらに マギのほうに行くわね
よく考えてこれからシンジビのを守りなさい

Hカア（後書き）

Hヴァでのコイとの邂逅を果たした鷺羽ちりちゃん
あちらでの騒動をお楽しみにしてください

マギの進化（前書き）

エヴァでのことを終えた鷺羽
マギシステムに入り込んで
赤木ナオコとの邂逅

マギの進化

シンジ殿が言つてたロボットやらをのぞいて「ようかね
アストラルボディだからどこにでも入り込めるからね
検査機器なんてちょろいちょろい
この鷺羽ちゃんにかかればね

エルフ本部のもぐりこんだ鷺羽ちゃん
エヴァの中でユイとの邂逅を果たし
まずはここ心臓部ともいえる
コンピューターに入りました
MAGIというんだね

ほつほつ

三つのコンピューターの合議制で決めるシステムなんだね
少しいじってみようかね

シンジ殿や 天地殿の邪魔にならない程度に

MAGIの最深部に入り込んだ鷺羽ちゃん

おやおや?

これはまた居妙なことがあるもんだね
皇家の木に似た感じがすると思つたら

生体コンピューターとはね

ふむふむ

女の思考するタイプに 母親の思考するタイプ
科学者の思考するタイプね

また原始的な生体コンピューターだね

「うら起きなさい 起きなさい

何よもう人がせつかく寝てたのに

あなた誰なの

私は宇宙一の天才科学者プロフェッサー鷺羽ちゃんよ

ちょっとあなたに聞きたい」とがあつたのよ
で名前は

赤木ナオコよ 行き成りたたき起こして
何よもう

よくもまあこんな原始的なコンピューターでねてられるわね
あきれるわ

げ、 、 、 原始的、 、 、 、 、 、 、 、 よくも言つたわね
これでも世界最高のコンピュータよ

よくお聞き

確かに生体コンピューターを開発したことば褒めてあげるわ
上には上がいることを考えなさい
一台のコンピューターでできるんだよ

「んな」とは

できるところなら証拠を見せて

うおつほん

いいわ見せてあげる私の世界の
この鷺羽が開発したものを
ちょっと来なさい

お互い アストラルだから
どんなこともできます

アストラルだけならこことシンジの世界との行き来は
鷺羽ちゃんが開発しています

天地世界のGPAカタマリーに連れてこられた

赤木ナオコは驚くやら、びっくりして呆然としていました
いい世界最高なんてうぬぼれてはいけない
テクノロジーは日々進化してるんだから
あんたも科学者の端くれなんだから
寝ていいわけないでしょ

わかってるわよあなたに言われなくとも
こんな素晴らしいものを見せられたら
科学者の血が騒ぎます

さて向こうの世界に帰ろつかね
やることは分かったみたいだから

シンジの世界に帰ってきた一人は
マギのsuperversionアップにとりかかりました
もちろん マギの最深部ですから外に漏れることはあります
赤木リツコが気が付かないほど
巧妙に隠されていました

とりあえずダブル思考できるようにしましょう

表は今まで通りの思考

裏はより複雑な思考ができるようになります

最深部は完璧なブラックボックス化することにしました
表のマギメルキオール、バルタザール、カスパーは今まで道理の仕様
裏はもちろん マギ鷺羽 マギ津名魅 マギ訪希深となづけました

もちろんどのマギも天地君やシンジ君の敵になことはしませんし
できません
なぜって鷺羽ちゃんだから

朝までに終わつたようです

天地殿 シンジどの頑張つて
下準備は終わったからね

マニャの進化（後編）

さてさてシステムバックアップはおわったよ
これからひじなることひじ

最深部（最奥部）

H₂トマトマサの仕込みをおわった
鶯羽ひやん

次の悪だくみをお楽しみください

最深部

システムやエヴァの仕込みをおわった鷺羽ちゃん
どうもおかしな気を發揮する所に気が付いた
いろいろ探る間に
ネルフ本部最深部に到達しました

これは！

失われた古代先史文明の遺物にてるわね
ええっとなんて言ったかね
リリスシステムに似てるわね

使つものの心理思考を読み取るキー システム
キーロンギヌスのやり

リリスシステムとロンギヌス

鷺羽ちゃんは自身の持つ探査システムを駆使して
リリスシステムとロンギヌスをなめるように探査しました
ほへへへへへ
「コピーとは、いえよくできてるわね～～ 感心するよ

ただしこれをコピーするだけの技術はシンジの世界には存在してま
せん
何らかの異星人が介入したことは間違いないでしょう
でもこの物語ではかんけいがないので割愛します

でもコピーはコピー決定的な欠陥を発見してしまいました

一度発動してしまつと何もかも壊してしまつ、言い換えれば
暴走してし暴走した後になのもなくなつてしまつ荒涼とした世界
しか残さない

本来のシステムは 無開発惑星を開発するためのシステムです

リリスとアダムそしてロンギヌスの三つがそろわないと
発動しないシステムです

でも今あるコピー製品は
いけにえとなるものが必要です

それも三つ若き無垢な少女

誰と誰かこまいわなくともおこおいわかるでしょう

このままじゃいけないね こんなもの発動したら
この世界が壊れちまう、

どつしたものかね そうだシステムの根幹に関するものを
書き換えてしまいましょう、

うふふふ

あれをこうしてこれをこうしてそれをこうして

いろいろいじつてしまつた結果

天地殿にしか反応しないようにしてしまこましよう
この世界の人々がどんなにいじろうとも
天地殿以外は

にやりつ 鶩羽ちゃん独特の笑いが発動しました

リリストシステムはこれでいいね

もう一つ

これは人との尊厳とか無視しまくる行為
良い行為で言えば「れほどよいもの

でもそこに漂うものはなにか? しない、反応しない
たださまようつているだけのもの
そう

綾波 レイの「ローブ」

かすかにレイの魂の残滓が残ってるレイの「ローブ」たち
このままじゃいけないね

いぜん魑皇鬼が鷺羽の研究室にいたときマスが集まつてきて
魑皇鬼が女性体になつたよ

レイも補完してしまつことを思いつきました
もちろん今すぐするわけではないので

レイちやーーーん楽しみにしておいてね

そこに漂うレイの「ローブ」たちよ

おまえたちはどうしたいかききたい

さすが三神の頂神の長女、ものすごい威厳をもつて告げました
このまま器としての生涯を終えたいかそれとも

今上にいる綾波レイを助けるために使われたいか
答えなさい

しばりくじて レイちやんズは答えました

微弱な意識を持つて

私たちには補完計画を実行するためうみだされたもの
レイの「**ヒーリング**」悲しそうな波動をだしながら

もしかならぬ 今上にいる姉妹のレイのために何かできるなら
あなたに何もかもゆだねます

わかつたよ レイ

では今は静かに私が作つたところに移動をせます

はい

さて レイちゃんズはこれでいいわね

なにもいなくなつた水槽に鷺羽ちゃん人形を入れておきましょ
うたくさんね

第一期最終の時にで出来たD・クレーにつかまつてた時に

鷺羽ちゃんが身代わりにした鷺羽ちゃん人形

鷺羽ちゃん独特の嫌味を聞かせた人形
見るものが見たらただの鷺羽ちゃんの人形
ただし他のものが見たらレイが漂つてるように見える
そんないたずらをこの水槽に施しました
決して見破れないとすらです

ふふふふ完ぺきだ 鷺羽ちゃんすいー 鷺羽ちゃん宇宙一
そうテレビ版でた鷺羽ちゃん応援団です

宇宙一の天才科学者にかかるべきもんだよ
深夜の空間に笑い声がこだました

鷺羽ちゃんの介入により ゼーレおよび碇 ゲンドウの補完計画は
完全に破綻しました、どんなに行おうとも
うんともすんとも実行できなくなりました

さて道化師たちゼーレ 碇 ゲンドウには踊つていただきましょう
そこまで道化師として

鷺羽ちゃんの手にある裏死海文書そう碇 ユイの解読した裏死海文書
ただのシステムの取扱説明書を大事そうにありがたがつてる
ゼーレの老人たち 碇ゲンドウがあわれに思えます

では次の話まではばしサヨナラです

最深部（後書き）

早々に補完計画が破たんしました
どうなることでしょう

朝の出来事（前書き）

田覚めたシンジ君
わしゃわしゃなる」とひしき

朝の出来事

翌朝

天地やシンジ君が目覚めます

おはよう兄さん

おはようシンジ

おはよう天地殿、シンジ殿良い目覚めができたかな

ええ鷺羽ちゃん 天地

あまり寝られませんでした 鷺羽さん シンジ

いっしーいシンジ殿鷺羽ちゃんて呼んでくれないと返事してあーー
ーげない

天地はまた始まつたかと苦笑します

やれやれ、ヽヽヽヽ 鷺羽ちゃんはじまつたね

鷺羽さん 無視
鷺羽さん 無視
鷺羽さん 無視
鷺羽さん 無視

大人おのあなたにちゃんとつつけられません
どこまでも生真面目なシンジ君

この姿になればいいのねシンジ殿

行き成り縮み始めた鷺羽

わっわあああああああ シンジ

いつもの姿形になつた鷺羽

看護婦姿の

天地君は慣れてるので驚きません

ですが初めて人間が縮むのをみたシンジ君はただただ驚くばかりです
そらそうでしうね

シンジの世界ではそんな芸当できる人間なんていませんから
大きなエヴァを作れるのに ね

いやいやしてゐる鷺羽

これならどうだいシンジ殿

声も出れずにただただうなづき返すシンジ

わしゃひちゃん 小さな声で言ひシンジ

聞こえないねシンジ殿

わしゅうちやん 少し大きな声で

聞こえないねシンジ殿

今度は普通の声で 鶯羽ちゃん

よし それでいいわよシンジ殿

シンジ殿 あなたに聞いておきたことができてる
レイちゃんのことなんだけば

レイちゃんはりっすのあいの子だけど
重要なことなのでもう一度聞きます
これからも普通に付き合つていけますか
もう一度聞きます

ただの女の子とじつおつきあいできますか

はい！
はい！はい！

僕は綾波をただの女の子として御付合いします！

戀の告白だねシンジ殿

言った途端ゆでだこのように真っ赤になつたシンジ君がいました

良かつたよこれで例のことができるよシンジ殿

例のこと？ シンジ 天地

うんにゃ今は気にしないでいいよシンジ殿天地殿

ために、この問題を解くためには、まず、各層のレイヤーを理解する必要があります。

朝の出来事（後書き）

鷺羽ひやんが念を押すお話をでした

レイの笑顔（前書き）

シンジ君の初恋そして
ほほえましいお話です

レイの笑顔

少し待つてなさい

と隣に移動する鷺羽

おはよう気分はどうだい レイ殿

あなたはだれ？

私は宇宙一の天才科学者プロフェッサー鷺羽
鷺羽ちゃんと呼んでね

無表情のレイ

驚くこともしないレイ

そして自らの持つてる本に視線を移すレイ

さすがの鷺羽さんもあきれ果てる、

何も教えてないんだね 碇 ゲンドウ あきれ果てるね

大変だよシンジ殿 普通の女の子にするのは これからシンジ殿
次第だね

レイ殿

鷺羽に視線を向けるレイ

リリス レイの「ペーたち という鷲羽

みるみる驚愕するレイ

ほつ驚く表情はできるんだね

なぜそれをと 答えるレイ

碇司令 赤木博士以外に知ることはないレイの秘密を
ことも投げに語る鷲羽

昨日のことを事細かに告げる鷲羽

俯くレイに鷲羽は自愛を込めて語る鷲羽

レイ殿 あんたの生まれがどうだりうと関係ないんだよ
レイ殿は今この瞬間に生きてる人間なんだよ
リリスがどうとかは今関係などないんだよ
私の娘もねレイ殿と同じなんだよ リョウコというんだけど
私と宇宙生物のあいの子なんだけど 生まれ確かに特殊だけど
今も生きてるんだよ 普通の人間としてね
人を好きになる素晴らしいじゃないか
レイ殿にも同じようにしてほしい
リョウコと同じように普通の女の子として今生きて生きてほしい
これから自分は予備とか言つたら承知しないよ

優しくレイを抱きしめる鷲羽

鷲羽の言葉を聞いて驚愕し そして涙が出始めるレイ

うわあああああああああああああああああああああああああ

泣き始めるレイ

よこよし思いつきつお泣きレイ殿

思いつきつ泣いたレイ

やして レイに重要なことを告げる鷺羽

地下に保存されてるレイ殿の姉妹たちをビビりたい?レイ殿

今のおまじやまぢこからとつあえず別の場所に移動させてるけどね
もし何かの役に立つんならあなたにまだねたい鷺羽さん

鷺羽ちゃんといふてこわなかつたかな

言った

もう一度

鷺羽ちゃん 素直ですねレイちゃんはと頭御なでる鷺羽ちゃん

照れてるシンジ殿とは大違いだよ

わかつた レイ殿 レイ殿の思つよつこじかあげるよ

楽しみにしておこで レイ殿

さて
外で聞き耳立ててるシンジ殿入つておいで

びつべつしんじ

真っ赤になりながら入つてくるシンジ

おはよう綾波さん

ひらくするノイ

お、お立派な筆致も顔の二

また驚愕するレイ

でもねレイ殿それでもシンジ殿は構わないと
レイ殿を受け入れると

近寄り抱きしめるシンジ

素直に抱きしめられるレイ

そしてまだ泣きは始めるレイ

その涙は心の底からうれしいと表現する涙でした

そして 顔を上げるレイ

悲しくないのに涙があふれるの教えて

それはね、うれしいと心が流す涙なんだよ綾波さん

心行くまでなくレイ

そして あのセリフが出ます

こんな時どうすればいいの

笑えばいいよ綾波

そして朝田のように微笑むレイ

シンジ君は射抜かれてしまいました レイちゃんの笑顔に
シンジ君の初恋です 成就してもらいたいものです
作者の願望です

必ず笑顔を守つてみせるよ 綾波

良かつたなシンジ

良かつたねシンジ殿

といひで これから綾波さんを呼ぶときビックリだらいいかな

しばらく考えた後レイちゃんは言いました

レイと呼んでほし

呼び捨てにするなんてできないよと
真っ赤な顔でのたまうシンジ

お願いと必殺の笑顔で「レイ

純情なシンジ君としてはどうにも対抗策もないの

真っ赤な顔で

レイ

とレイちゃんに答えました

「これからはレイとよぶね

必殺の笑顔でうなずくレイちゃん

僕のことはレイの思う通りによんでもほしい

シンジ君

必殺の笑顔でシンジ君と呼ぶレイちゃん

「」は一人任せましょつ

シンジの部屋に戻ってきた鶯羽

いつの間にかベッドには天地君の体がありました

天地とリンクしてゐる鷺羽ちゃん

天地君の遺伝子情報を書き込んで天地殿がここで活動できるように用意したそうレイのコピー体でした
もちろんシンジとのリンクを残しましたまで

どうする天地殿

わかつたよ鷺羽ちゃん

メインはシンジだからね 鷺羽ちゃん

わかつてゐわよ天地殿

これから陰で暗躍を始める天地、

その始まりでした

レイの笑顔（後書き）

素敵な笑顔が見れたシンジ君でした

そして等身大になつた天地君の暗躍が始まります

これから展開が楽しみになりました

退院（前書き）

退院するシンジ君
その朝のことです

それからの数日はシンジ君にとって楽しい日々でした
朝からのあいさつに始まり夜のあいさつまで
ほんとにシンジ君にとって樂しい時でした

レイちゃんの笑顔が見たいばかりで

面白い話や悲しいお話

シンジ君が味わった幼いこの出来事を包み隠さず

レイちゃんに話しました

レイちゃんにとつて初めてのことばかりでしたが

ずいぶん表情もできるよつになりました

シンジ君の幼いこの話を聞いたとき

レイちゃんの心は張り裂けそうな悲しみに覆われて
泣き出す始末です

シンジ君は私よりつらい目にあつたのね

私は碇司令に育ててもらつたの

じつの子供のシンジ君はつらいつらごめにあつてるのに

それでも私を受け入れてくれたの

レイの心はもうシンジ君のことしか考えられなくなっていました

私はシンジ君しかいらない、シンジ君だけが私のよつばい

完ぺきに依存状態ですね

ラヴラブ状態

レイの心はシンジでこっぽになっていました

碇司令の「などレイの心からすっかり消えてなくなっていました

レイにとつともこの数日は記憶の中で光り輝くものとなっていました

さてシンジ君の退院の日が来ました

迎えに来たのは葛城ミカトさんです

あまりいい印象はありませんが、これからもお世話になる方です
不機嫌な顔も見せてはいけないので

これからのことをシンジ君に告げます

碇シンジ君

正式に特務機関ネルフ本部に配属になりました

階級は特務軍曹の階級が与えられます

もううんネルフで見聞きしたことは機密扱いになりますので
くれぐれも喋つたりしない様にしてください

違反すると 最悪は銃殺刑 軽くとも監禁に入つてもらいます

いいですね 拒否は認められないのです

反論があるならここで申し述べてください

特に何も言ひません

しっかり受け应えられるようになりました
これも天地君や鷲羽さんそして レイちゃんとの日々が
シンジ君を強くしていったのです

もうおどおどしたシンジ君はもういません

守るものができたとき人は成長するもんです

それにもともとシンジ君は優秀なんですから

碇ゲンドウコイの子供ですし

天才と呼ばれた碇コイ 碇ゲンドウ

優秀な子どもがてきて当たり前です

親戚のところに預けられてた時から 成績は常にトップクラスにいました

それも親戚には面白くなかったから余計にいじめられていきました
しかしそんなことはみじんも感じさせない
シンジ君は強くなりました

シンジ君今から私のところに下宿してもいいです

これは碇司令の要請です

まだまだ君のは保護者が必要ですから

わかりましたそれでいいです

と硬い話はこれまでにして

うこうういシンジ君レイと親密になれたようね
お姉さんはうれしいわ どこまで行ったの
キスしたの？

にゅにゅしながら聞く//サトさんです

本当に瀬戸様みたいですね
とシンジの心で天地がつぶやいていました

しませんよ！

お話してたんですから毎日
からかわないでください

葛城さん

前にも言ったと黙つた//サトって呼んでほしこと黙つたわよね

確かにやつ聞きましたけど

上司と部下の関係になるのに、気軽に言えるわけないですよ

葛城さん

確かにシンジ君とあたしは上司と部下の関係だけど

葛城さん

プライベートではそういうことは持ち込みたくないのよ
わかつてくれるかな

もちろん本部では葛城三尉と呼んで貰わないとなめだけど

だめ?シンジ君

ふうひひひひわかりました

公私の区別はします

わかつてくれてありがとうシンジ君

レイに挨拶しておいで シンジ君

ここん

レイはいるよ

おはようレイ 今日もいい天気だね

おはようシンジ君

うれしかった微笑んで答えてくれました

今日 退院になつたんだそれで挨拶に来たんだ

笑顔から泣き顔に変化しました

あわてたシンジは「いつ答えました

泣かないでレイ 毎日見舞いに来るからどうか泣き止んで

あつと来てね 待つてるから

そうだ明日来るとき何か持つてくれるから

何か食べたいものはないかな

肉以外なら何でもいいわ

わかつた飛び切りのお弁当を持ってお見舞いに来るよう
うん待ってるわ

やつと泣き止んでくれました

約束よ シンジ君

一連のやり取りを見てたミサトは驚いていました
あのレイがないでいたりわらついたりがおを見せるなんて

驚いた後 何か企んでいる顔をしました

天地君が叫びました

鬼姫がいるジュライの鬼姫がそこにいる

確かに似てるといふがありますねミサトと瀬戸様は

さて歸りましょう 愛しの我が家に

またした来るね レイ

また明日 シンジ君

退院（後書き）

無事退院することがでたシンジ君
別れの情景がうまくかけたでしょうか
ではその夜のことは
次のお話で語られるでしょう

回屈（前書き）

ミサトの部屋での回屈が始まっています

帰り道にスーパーによつて食材を買ひ込み

例のイベントをこなした後 ミサトのマンショングリーン一人

ミサトの運転はすゞましこほどのテクで

シンジ君は田を回して氣を失つていました

一度とミサトさんと運転する車には乗らないと心の誓ひ
天地君シンジ君でした

そして部屋に入つて驚愕しました

「みじみじみ夢の島に来たようでした
気が遠くなるような気分でした

どしたの早くはいつたら

言葉が出ない天地とシンジ

天地の家では常にきれいな状態でしたし
ささみちゃんやノイケさんがきれい好きといつのもありましたかし
家族が協力していました
あのいつですり、掃除をしていました

だから天地君には信じられないといった気分でした

シンジ君が言いました
いいのは夢の島?

失礼ね、私の家よ、これでもね
貴方のうちでもあるのよ

決意するシンジ君

掃除します。こんなところでは生活もできません
いいですね。サトちゃん

はい
なんか怖いわねシンジ君

もちろん手伝いますよねミサトさん

これ以上怒らせては

いにないと情けない事でした

それから2時間後 すっかりきれいになつた我が家に感心するミサト

ご苦労様です!!サトさんお疲れ様

ところでなぜ冷蔵庫が2つもあるんですか

後でわかるから楽しみにして

台所の冷蔵庫からえびちゃんを出して飲み始める//カト
くあああああ生き返る

一仕事した後のえびちゃんはたまらないわ

“じかのおやじのやひこのたまつ//カトやんとした

なんじや じつや と呟ふシンジ

某ジーパン警察官が叫んだセリフです
と冷蔵庫を覗くシンジが叫びました

冷蔵庫の中は ビールが所狭しと並んでいました

買ついた食材を出すためのビールをせりやと出し始めました

そして食材を入れ終わつた後
シンジが//カトに告げました

冷蔵庫に入らなくなつたビールはすべて捨てます

やつ聞いた//カトは呟びました

やめてええええええええええええええ私の生きがいを捨てないで

何言つてゐんですか//カトやん

これからは冷蔵庫に入らないビールは
どんなに買ってきてもすべて処分します
ミカトさんの健康のために言つてゐんですから

それと自分の部屋以外つをまた夢の島にしたら
一切の酒類の持ち込みを禁止します

い い で す ケ サ ト サ ん

滂沱の涙を流す//サトには承諾する道しかありませんでした

よろしい約束ですよ//サトちゃん

意外と厳しいことをあるシンジ君です

今から料理しますからビールでも飲んで待ってください

もうすっかり機嫌を直す//サトさんです

えびちゅ えびちゅ

鼻歌を歌いながら料理をするシンジ

うまいものだなシンジ

砂沙美ちゃんが料理してるみたいに手際がいい

親戚の家では家事はすべてしてたし

好きなんですよ料理は兄さん

できた料理をリビングのテーブルに並べ終わったシンジ

ミ～サ～ト～さん 料理できましたよ
早く来てくださいね

は～～～い

いただきます ミサト
いただきます シンジ
手お合わせてこう一人

美味しいわねシンジ君　お店が開けるわよ

そんなことはなこと//サトさんただの田舎料理ですよ

と謙遜するシンジ

お金を出してもここに遊びついこの出来栄えでした

楽しくいただてる一人

えっとミサトちゃんからは料理は僕が全面的にしますから
掃除や洗濯はミサトさんにおねがいしますね

最後は氷のような視線と言葉で射抜くよ//サトに告げました

わかってるわよシンジ君　冷や汗をかきながらこいつ//サトさんでした
ビール捨てられては困るのでしぶしぶ返事しました

その様子を　じと目でじらむシンジ君

解く言つたシンジ　ミサトさんには強く言わないとダメみたいだか
らね

はい兄さん

食後30分が経過し　あとかたずけとレイちゃんにあげる
弁当の仕込みを終わったシンジ

シンジ君~~~~~お風呂入ってきなさい
お風呂は命の洗濯というから

と風呂に入る準備をしてお風呂に入るシンジ

いきなり飛び出してきました

お風呂でぐんぎんか

ペンギンが頭にタオルを乗せた状態で出てき
リビングの冷蔵庫に入ってしまいました

あ、ああもう一人の同居人の温氣ペンギンのペニンペニンというのよ
賢いから人の言葉も理解するのよ仲良くなしてあげてね

リビングの冷蔵庫の意味を悟ったシンジ君でした

魑皇鬼のペンギン版か
と悟る天地君でした

「はい、おつむしでござりますよ。アサトさん

いないわよ安心していいわよシンジ君

安心して入浴するシンジ君でした

ミサトさんと会話しながら樂しい時間を過ごしました

部屋に入るとおこなう//ナトさんがシンジに話こました

シンジ君は//の第三東京市を守つたのよおもてこまつてこわよシン

ジ君

ありがと//ヤロコモク//ナトさん

微笑みながら部屋に入りました

//ナトが入浴中にリソウに電話をかけていました
報告書と違つから注意したほうがいいわよリソウ

もつ泣き事//ナト

違つわよコソウ

いこ意味でも悪い意味でも注意したほうがいいわよリソウ

了解//ナト

と電話で会話を一人でした

シンジの部屋では天地と鷺羽ちゃんとシンジ君が
作戦会議をしていました

とつあえず//ナトさんと生活をしつつ情報を集めを鷺羽ちゃんにお願
いしまく

了解 シンジ殿

天地殿はどうするの

少し考えがあるのであれで暗躍します

シンジ殿はとりあえず今ままでいいでじゅう

また変わったことがあれば相談しまじょう

夜が更けるまで話しあいました

鷲羽ちゃんのセキュリティで今までの病院とかーの部屋の会話をす

べて

漏れていません

完べきなセキュリティです

回居（後書き）

ミカト部屋での騒動およびパンパンとの出会い
天地と鷺羽の会議
うまくかけたでしょうか
ではまた次のお話を待ちます

第一 東京市（前書き）

天地君が第一 東京市での暗躍のお話

第一東京市

シンジ君がレイちゃんと楽しい時間を過ごしてくる日のことですか

シンジ君を助けるために暗躍を始めた天地君
まず自身のあしばを固めるためにやんごとなき
お方にお願いするため第一東京市にやってきました

えつと鷺羽ちゃんの話によると伊集院忍といつ人に連絡しなさいか

何時鷺羽ちゃんはつなぎをとったのでしょうか
鷺羽ちゃんといつべきでしようね

鷺羽ちゃんにむづつ携帯で伊集院さんに電話する天地君

ふぬぬぬぬぬぬぬ がちや

もしもし わたくし柾木天地樹雷と申します

伊集院忍さんでしょうか？

はいわたくしは伊集院忍と申します

不躹ではありますが折り入ってご相談があり お宅にお邪魔したいと思
いますが如何でしょうか？

柾木 樹雷 柾木 樹雷 柾木 樹雷 考え込む伊集院さんでした
聞いたことあるような名前

ひとつあえず返事をする覚悟で

はい、わかりました 何時になりますか

10時JRの向いしたいと思います

わかりました10時ですね、お待ちしております

がちゃ

忍さんは天地君といか柾木 樹雷の名前が何のか書物に載つてゐるのを思い出しました

その書物は蔵にあるので蔵の中に探しにきました

しばらく探してると目的の書物が見つかりました

その書物の名前は天朝興亡記と書いてありました

その昔子供のころに忍さんが読んだ伊集院家に伝わる伝説を書き記したものでした

目的の名前が載つた項目を探し出し読み始めました

の帝がある公家の邸宅にお忍びで遊びに行く途中

恐ろしい魔物に襲われて供の武士や陰陽師が次々倒れしていくなか
颯爽と現れてその魔物を見たこともない光り輝く刀と光り輝く盾で
倒してしまいました

助けてくれたこと感謝する その方の名前は何と申す

柾木阿主沙樹雷と申します お怪我はございませんか

有無けがはない 優美を取らす

いえなど褒美入りません 困っていたのを見かけたのでお助けした次第です
では失礼します いつの間にかいなくなつていきました

感動した帝は宮廷に帰り柾木阿主沙樹雷を探せと
触れを出しました 一向に見つかりませんでした

それはそうでしょうね見つかるわけがありません
皇家の船がトラブルに巻き込まれ阿主沙だけがここに飛ばされ
また舞い戻つていたのですから

側近であるその時の伊集院忍さんのご先祖様に書き記すことを
命令して今にいたると書いてありました

天地君と阿主沙さまは同じ体験をしていましたですね
血筋というかなんというか 運命を感じざるを得ませんね

時間が来たので蔵からその書物を持参して
天地君が来るのを待つていました

ピンポン

天地君が来ました

応接室に案内された天地君

忍さんはおもむろに自身が持つてゐる書物を渡し
該当のページを読むようにいい その中にある名前を天地君に聞きました

柘木阿主沙樹雷と書いてありますが 君には心当たりありますか？

はいわたくしの曾祖父の名前です

そうですかではその書物に書いてあることは事実とこいつとか
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

考え込む忍さん

そして

君、お願いがあるといつゝことでしたが、どんな願いですか

実はわたくしの弟分にあたる少年を助けたいと思い、知り合いから
貴方のお名前をお聞きしご相談したいと思いここにまかり越しました

で、その知り合いの名前は？

白眉鷺羽ともうします

名前を聞いて苦笑してゐる忍さんでした あああの鷺羽ちゃんですか

天地君が驚いて考えます

なぜこの人が鷺羽ちゃんの名前を知ってるんだろうか

なぜ名前を知つてゐるかという顔をしてますね

大人の世界のことなので君は知らないほうがいいでしちゃうね

はあわかりました

で、私に何をしてほしいのかな?

実は戦略自衛隊及び自衛隊に入り込みたいので
それはどうしてですか・
シンジを助けるためです

わかりました

明日もう一度ここにお越しください
良い返事ができると思いますから

わかりました ではまた明日お伺いします

天地君は帰つていきました

忍さんは笑い声をあげました これは楽しくなりますね
ネルフに一矢報いることができる

やんごとなきお方に報告するためには
館のほうへ向かいました

陛下ご報告があります

わたくしの家に伝わる書物をお読みください

例の書物を陛下にお渡しました

そして忍さんは言いました

その書物に載つてゐる柾木 樹雷なるものの
子孫がわたくしの家に参りました

おおおおおおおお見つかりましたか
わが祖先を救いし柾木 樹雷が、・・・、泣き崩れました

ええその書物が本物であることが証明できました

ではそのものに褒美をやらねばならぬ
ええそりでござりますね

でもその少年は褒美などいらぬでしょ
その代りある地位を『えればよろしいかと

その地位とは？

戦略自衛隊と自衛隊の指揮権がよろしいかと
なぜですか

ネルフといえばお分かりと思ひます

うむ、ではその方の思つよしおんなさい

陛下はおもむろに錦の御旗を忍さんに預けました

根回しはその方に任す、
はは

次の日同じ時間に天地君が来ました

君の希望はすべてかないましたあとはその時が
来たら、＼＼＼＼です

これを君に預けておきましょ、

そうです錦の御旗です

こんな高貴なものをわたくしに
やん事気なきお方の好意の品です ありがとうございました
わかりました、 お預かりいた
します

では失礼いたします

天地君は、帰つていきました

總理に電話しまつよ

総理憎つゝきネルフに一矢報いる機会が訪れましたよ
あとは以前から用意したプログラムを発動しましょう
陛下からもご許可が下りました

あとは政府だけです

わかりました わが政権のすべてをかけて行いましょう
お約束いたします

この世界では 政府財界は愚かやんじなきお方まで敵に回してい
たようです

さて第一東京市での暗躍を終えて第二東京市に帰つていいく天地君で
した

第一東京市（後書き）

第一東京市での暗躍のお話でした
ネルフはどこかの世界でも嫌われていますね
ではまた次のお話を待ちください

弁当（醜書號）

レイちゃんへの弁当です
#このお詫びです

弁当

翌朝早くに起きだしたシンジ君 朝¹はんとレイちゃんのために作る
弁当を作り始めました

定番の卵焼き たこさんワインナーと昨夜に作つておいた
煮物等をきれいに盛り付けてお弁当の完成です

レイ喜んでくれるといいなと一コ一コしながら

本当にうれしそうな笑顔をするシンジ君

ミサトの朝¹はんと毎¹飯を用意して

手早く自身も朝食をとり 着替えをしました

ミサトの部屋の前で

ミサトわ～～ん朝と昼の用意しますから適当に食べてくださいね
食べた後の食器は流しにおいておいてくださいね～～～
僕が帰ってきたら洗いますから～～～

寝ぼけ眼のミサトは

ほ～～～～～～～～い返事しながらまた眠つてしましました

やれやれと思いながらレイが入院する病院にきました

おもむろに起き上がり携帯を取り出し電話をするリサ

ターゲットは病院に行つたわ ガードよりじへと粗手にいって電話を切りました

昨夜、リックと長話したためまた布団に入つて寝ちゃいました

すばらしいナサトさんですね

病院に着く前に青果店によりお見舞いの果物を買って
病院に向かいました

レイちゃんの病室に入りました

おはよー レイ加減はどう

おはよー!シンジ君 今日は大分いい

シンジ君の顔を見ると嬉しそうに微笑み答えました

昨日約束したとおりお弁当作つてきたよレイ

ありがとうございます

本当にうれしそうなレイちゃんです

食後の果物も買つてきたから後で食べよつね

はい

匂いはんまで時間があるので備え付けのテレビを一人で見ながら時間が過ぎて

匂いはんの時間がきました

あまりおこしくないかもしないよ といいながら弁当を差し出す
シンジ

弁当を受け取ったレイちゃん

これすべてシンジ君が作ったの?

うんそうだよ

うれしいありがとう

真っ赤になりながらシンジ君食べさせないとこいつレイちゃん

そうがカモフラージュとはいへがしてるんだつけ
と心で思いながら

真っ赤になりながら返事をするシンジ君

うんわかつたよ

ワープラップ空間を醸し出していました

見ていましたねこのあま~~~~~ーラップ空間

食後の果物もかすむ甘さ

数時間が過ぎ

名残惜しいですが面会時間が終わりました

もう帰らなきゃいけないね

れおしゃうに並んでシンジ君 レイちゃんも泣き出しそうな顔で

行かないでと泣き出す始末

また明日も来るからなきでレイ

うそきつとよ 絶対にね

氷の無表情と言われたレイちゃんがこれほど表情豊かになるとま
作者も予想外です
あいですね~~~~~

また明日ね

うんまた明日

と病室を出るシンジ

Hレベータの前で待つシンジ君

ドアが開くとそこにはゲンジウがいました

シンジ君何してるんだ

そんなこと父さんに関係ないだろ？

レイのお見舞いに来たんだよ

そりゃ

とHレベータから出るゲンドウ

何も言わずに去つていくゲンドウ

うれしい気分をぬき洗された気分で帰つていきましたシンジ君

レイの病室に入るゲンドウ

レイ具合いかと聞くゲンドウ

氷点下の氷の表情で答えるレイちゃん

問題ありません と答えるレイちゃん

わづレーチャンの心はゲンドウはおつません レイちゃんの心に
住んでるのはシンジ君ただ一人

レイの表情に違和感を覚えたゲンドウですが
氣のせいと思いながら

退院したらまたステーキでも食べにいこうとここ
病室を出てきました

シンジ君 シンジ君また会いたいねばこいたいと泣き出すレイちゃん
病室に泣き声だけがひびいていました

その夜のことです

夕食を食べた後//カトさんごはん//でござりました

シンジ君 月 日から第4中学校にかよつてもう二年
レイも通っているから楽しみでしょうシンジ君

はこと嬉しそうにしてござました

ほんとシンジ君はレイのことは好きなねと頬づけたりしてアサリ//でござった

弁当（後書き）

シンジ君とレイちゃんの会話お話し
如何でしたでしょうか

つぎはシンジ君の学校生活のお話です

ではまた次のお話ををお待ちください

登場人物紹介

登場人物紹介（今更ながらですね）

碇 シンジ

本作品の主人公
特務機関ネルフ
階級は特務三等曹官 サードチルドレン
エヴァンゲリオン初号機パイロット
さまざま不幸に見舞われながら元気よく生きる男の子
天地君が突然精神に憑依されても動じないほどの心の強さをもつた
男子

恋愛に関しては驚くほど奥手
レイちゃんとは相思相愛

頭脳は碇 ゲンドウ 碇 ユイの血をひき、成績は常にトップクラス
運動は苦手、チョロはそこそこ
のちに天地君から「光鷹真剣」を指南してもらいます
料理は腕は超プロ級五つ星クラスのレストランが開けるほど
柾木砂沙美樹雷と為を張れる

怒るとミサトさえ怖がらせるほど

柾木 天地

本作品の陰の主人公
天地無用！魍魎鬼シリーズの主人公

本作品ではシンジ君の精神世界でのお兄さん役です

現実世界ではレイの「コピー」体に憑依して陰で暗躍しております

シンジ君の前に現れるかは今のところ未定です

剣の腕前は「光鷹真剣」の使い手達人級

自力で「光鷹翼」を展開できる唯一の存在

シンジ君に剣を指南します

恋愛に関しては驚くほど奥手

白眉 鶩羽

宇宙一の天才科学者

天地無用！魑皇鬼シリーズに出演中

本世界では精神世界で活躍中

レイの「コピー」体に憑依してたまに出てます

マッドサイエンティスト

どんな活躍をするか作者にもわかりません

綾波 レイ

本作品でのヒロイン

特務機関ネルフ

階級は特務三等曹官 ファーストチルドレン

エヴァンゲリオン零号機パイロット

シンジ君の恋人

リリスと碇 ユイとのハイブリッド

但しリリスの遺伝子のほうが強いためほとんどユイに遺伝子情報が

ありません

唯一あるとすればユイの顔についているぐらいい子孫を残すことができます

シンジ君とは超ラブ ラブです

葛城 ミサト

特務機関ネルフの作戦部長

階級は特務三等尉官

作戦は臨機応変な用兵をします

たまに変な作戦を立てますが 意外とうまくいくことが多い
生活面ではすばら ごみに埋もれても平気

えびちゅう命 えびちゅう命 えびちゅう命 えびちゅう命

面白いことに首を突っ込みたがります

ある作品でのヒロイン 悲恋の経験あり

加持とは大学時代の恋人関係

赤木 リツコ

特務機関ネルフの技術部長

階級は技術三等佐官 唯一の士官

葛城 ミサトの親友 大学時代からの腐れ縁

碇 ゲンドウの愛人 のちに離反

徹底的なテクノロジー信奉者

赤木 ナオコ

特務機関ネルフの初代技術部長
階級は死亡しているためなし
マギシリーズの生みの親
マギの中でお休み中

鷲羽にたたき起こされて覚醒

マギのバージョンアップを鷲羽とともににする

元碇 ゲンドウの愛人

現実世界に出るかは未定

碇 ゲンドウ

特務機関ネルフの総司令官

階級は特務一等将官

認めたくはないですがシンジの父親

この物語における不幸の大元締め

頭脳は優秀

シンジ君を不幸に追いやり レイちゃんを氷の無表情に
追いやつた悪人

ユイを復活させるためなら何でも実行する行動派

碇シンジ、赤木親子すら駒にする悪人

ユイ命 ユイ命 ユイ命 ユイ命

碇 ユイ

特務機関ネルフ

現時点では死亡しています

エヴァンゲリオンの基礎を作った科学者

シンジの母親 改心しました

鷲羽によりシンジの不幸を聞かされ改心しました
ゲンドウを憎んでいます

頭脳は天才です

裏死海文書を解読した唯一の人

この物語におけるキー・パーソン

現実世界に出現します 時期は未定そんなに遅くはないです

冬月 コウゾウ

特務機関ネルフの副司令官

階級は特務次席将官

ゲンドウ ユイの大学時代の恩師

ネルフの良心

ゲンドウの言動や行動に頭を悩ます苦労人

胃痛もち はげるかも

ゲンドウの裏の補完計画はしりません

ユイを本当の子供のように思っています

ゼーレ

人類補完計画を画策し執行する力を持った老人たち

裏の世界を牛耳つてる老人集団

ゲンドウすら駒に扱えるほどの権力と財力を持つた集団

真の裏ボス

こののちほど出る方たち

惣流 アスカ ラングレー

特務機関ネルフディッシュ支部

階級は特務三等曹官 セカンドチルドレン

エヴァンゲリオン二号機パイロット

ヒロイン候補

TV版とは違う性格の持ち主

出会いまではひみつ

洞木 ヒカリ

第一中学校

のちに特務機関ネルフに所属 フォースチルドレン

階級は特務三等曹官

エヴァンゲリオン四号機パイロット

この物語では使徒の憑依はありません

ヒロイン候補

鈴原 トウジ 相田 ケンスケ

出ますが

大けがをして長野の学校に転校します

妹云々はこの物語ではありません

伊吹 マヤ

特務機関ネルフ

マギの専属オペレーター

赤木 リツコの高校大学時代の後輩

科学者としての赤木リツコは尊敬しています

性格はノーマル

「コピー」体の天地君の恋人になる予定

天地君ファミリー

幾人かは出演予定

登場人物紹介（後書き）

階級等はうる覚えですので間違っているかもしません
教えていただければ直します

初登校（前書き）

ご指摘がありましたので作者視点　精神視点　現実視点の書き方を
改变します

作者視点は今まで通りで行間を開けます　精神視点では（　）　現実
視点では名前をはつきり書いたうえでこれから行こうと思います

初登校

さて楽しい病院通いも終わり登校日が来ました

シンジ君今日から学校だね
気兼ねなく中学生生活を送つてね ミサト

はこ//ミサトさん

どんなことが始まるか今から楽しみです シンジ

(いい学校生活が送れるることを祈つてゐよシンジ)
(あつがとうござります兄さん)

じやあ車に乗つてしまつぱりよ~~~~~
ミサト

(ザつまた//ミサトさんの運転かいだよ兄さん、俺も乗つたくない
よシンジ)

なつによそのいやそつな顔はシンジ君

そんなに私の運転する車が嫌なの

ミサト

それはそつでしょつ氣を失つう運転なんて誰も乗りたがりはしないと

思こまあよ

せつひひひさなじとせあつまかたよ　//ウ//ウ//ウ//サトウカセ　シ
ンジ

じゃあ乗って乗って　出発進行　ミサト

いやいや乗り込むシンジ君でした
暫くは普通の運転でしたが後続車に抜かれた途端　田の色が変わつ
た//サトさん

私の前には何人も走らせはしないわよ、ターボオン　ミサト

学校に行くだけなのに止まで走り出す//サトさん
どこの世界の話ですか某漫画の頭文字じやないんですから

(はじまつつつつつひつひつあああああああああああああ
//サトさんの暴走が)

もつ氣を失つシンジ君でした

シンジさんもうおねむなのだらしがないわよ

これくらい優しい運転なんだから

三十九

これで優しい運転だなんて本気になつたらどんな運転なんでしょう
空恐ろしいものを感じる作者です ガクブル
地獄の運転も学校まで続きようやく到着しました

シンちゃん起きなさい 学校に着いたわよ ミサト

シソジ
「はい? 私は誰?」

なに書かれたのかわからん

ナホト

やつと着いた学校に、

新編日本書

(、、、、、何も言つゝとがありません兄さん)

「一度と//サトさんの車には乗つません-//」
「//サトさん

わつ わかつたわよ
そ、そんなに言わなくても厳しか
～～～某美少女の戸の戦士風
に答える//ナト

そんなこんなで校内案内や教師紹介を受けたシンジ君

(それじゃあ兄さんまたあとで会いましょう)

(あれにつつて散歩でもしてくんぬよ)

(はいまたあとで)

今日から転校していく碇 シンジ君だ慣れない」ともあると思いつが
仲良くしてあげてほしい 先生

初めまして 第一新東京市から来ました碇シンジです
慣れないうともあると思いますが、仲よくしてくださいね 一一七

さやああああああと真っ赤になる女性徒

一田見てファンになる生徒

ファンクラブを結成し始める女性徒

此れは売れるところメガネの男子

けつと悪態着く似非関西弁を喋る男子

皆さんそれぞれの感想を漏らしております

男子にはあまり好意を持たれてはいませんね

女子にはいつもでもありませんね

静かにしなさいよー授業が始まらないわよ

私の名前は洞木 ヒカリ このクラスの委員長をしています

わからないことがあれば私に聞いてね

ヒカリ

ありがとうございます 洞木さんこれからもようじくね 一ノ口つ

シンジ

シンジの必殺ほほえみに射抜かれたヒカリ

ヒカリ ジハ ジれからもようじくね ヒカリ

そう答えるのが精いっぱいのヒカリちゃんでした

のちの碇シンジファンクラブ会員番号N-03 洞木ヒカリ

もちろんN-01はレイちゃん、N-02は惣流 アスカ ラングレー

碇シンジファンクラブ御三家の始まりでした

シンジを守り 愛し 慈しむことを誓い合う

鋼鉄の御三家

そんなこんなで波乱の学校生活が始まりました

わいの名前は鈴原 トウジや

僕の名前は相田 ケンスケです

ほくほ碇シンジですよひじく

当たり障りのないあこせつで終わひひ思ひてたシンジ君
行き成りからまれてしましました

わいはおまんを殴らなきゃならん ならんのじゅ シンジ

なぜ僕が君に意味もなく殴られなければならぬの
シンジ

鈴原は委員長のこと好きだつたんだよ
だから黙つて殴られておけよ ケンスケ

そんな理不尽な理由で殴られるわけにはゆかない
僕が悪いわけじゃないじゅ

逆恨みだよ シンジ

ひむといわ黙つてなぐられとけー トウジ

殴られそうになつたとき ヒカリちゃんが割り込み
鈴原を平手でたたきました

鈴原最低ね！男らしいと思つてたけど幻滅だわ
もつ話しかけないでね

たたかれた鈴原君は呆然とほほを触り教室を出て行ってしまいました

おい トウジ待てよと追いかけて行つたケンスケ君です

後に残つたシンジ君たち

男子と女子にされました

鈴原君は鈴原君なりの理由があつての行為だと思つ
男としては分からぬことでもないと思つ
だから彼を許してやつてほしい
お願ひします

シンジ君自身過去にそういうたいじめがあつたので
鈴原君に気持ちがわかるための発言でした
天地君との交流があつてのたまものがです

トウジ君にシンジの気持ちが伝わつたかは定かではないですが
教室いる生徒はシンジの言葉を胸に
トウジが帰つてきたら仲良くなつと思つました

ヒカリちゃんは違いました もつとシンジのことが好きになつてい
きました

自分より他人を大事にするシンジが

そんなこんなでトウジとケンスケは放課後まで帰つてくることはな

かつた

初登校（後書き）

初登校とトウジたちのやり取り
うまく表現できたかはわかりませんが
精いっぱいにしました

また次のお話を待ちください

シンジの修行（前書き）

天地君によるシンジのために行つ剣の修行ゆえに
天地君とシンジ君しか出ません
精神世界でのお話ではありません
ちなみに天地君も実体化をしております
読みにくいかと思いますが御了承ください

シンジの修行

まず精神の統一から始めるよシンジ
田を閑じなさーシンジ

耳を澄ませて周りの音を聞きなさい
いろんな音から俺だけの声に集中してこきなさい

どんな音にも動じなこよつに集中しなさい

今は虫の音や風の音や喧騒などがお前の耳に聞けられてくる
その音に惑わされてーるとと思つ
俺の声が聞こえにくくいと思つ

だんだん俺の声が小さくなつてこく

集中してくれば血ずとわかるよひになる

どこのから俺の声が聞こえるか指で示しなさい

そう今はお前の前にいるだが次はどこのかあててみんなさー

違つておこには俺はない

もつと集中しなさい

まだまだ集中が足りない

失敗 まだだ

ほかのことは考えるな！

声に集中しろ！

そう、そうだ今の感覚を忘れるな！

失敗！惑わされすぎだ
気を抜くな！

そんなことでは最愛のものなど守れはしない

まだだ！

お前はそれだけなのか！

甘えるなシンジ！

エヴァは鎧でしかない

身を守るには自分の精神を鍛えるしかない

技術は後からついてくる

自分を信じられないものが他人など信じることはできない

俺も同じことをじつちやんに言われた
自分の力を信用しろ

お前にはできるそれだけの力がある

心から信用しろ俺の言葉ではなく自分の内なる力を

そうだそれでいい

天地君の言葉を精いっぱい追いつちに六角形の赤い色した薄い膜が現れました

できただじやないかそれがお前の心の中の力だ

目を開けてみるシンジ

目の前のものを見てみる

シンジ君は A.T.フィールドを張っていました

兄さん言われて目を閉じました

初めは兄さんの声が聞こえませんでした周りの音に惑わされて

周りの音が大きくて
もつと集中しようと

だんだん周りの音より兄さんの声がかすかに聞こえてきました指を

それとこのので

そうしました

初めは田の前から聞こえたので正解しましたが

次は当たりませんでした
兄さんが怒鳴りました

また指をさしました でも当たりませんでした

もつと集中しないと

もつと何も考えなによい

だんだん兄さんの配を感じつつにならなくなっていました

でもまだ当てることができません

自分が守ったことと想つことしか考えなくなつてこきました
レバのことを心から守つたこと

そして自分のことを信じる

元気じみさひじみ

兄さんは同じ修業をしたと

心と体の修行を

確かにエヴァは鎧でしかないそう思います

心が心が大事だと思えるようになりました

もつ自分の声すらも信じていました

兄さんに頼らないで

目を開けると 兄さんに言われた

そこには薄いですが赤い六角形の膜が張ってありました

それが ATTフィールドでした

まだ薄いですがATTフィールド発現でした

そして木刀による修行が始まりました

何度も何度も兄さんに打ち込みますが
紙一重で交わされてしまいます

さすが兄さんと感動したら 撃ち込まれました

なにほーっとしてる 集中しようと叫びてるだろう

本氣で殴られました

もつと打ち込まないといけないな

夜になるまで何度も何度も兄さんに修行つけてもらいました

驚いたシンジもう木刀を握れるくらいに成長したんだな
俺の場合じっちゃんに木刀許可してもらつの

何年もかかったのに

でもまだまだな

気を抜くとすぐ俺に打ち込まれてこぶを作る

ある意味才能だなシンジの場合

悪党とはいえゲンドウの血筋恐ろしいなこのまま成長すれば
俺など足元にも及ばない位強くなるな

そうです ゲンドウの遠い祖先は何人の剣豪を輩出する血筋です
文武両刀を地で行く血筋だったのです

ですが時代が過ぎるうちに血が薄まり頭脳だけで身を立てる人が
多く出てきて ゲンドウといつ悪党が出てきたのです

しかし隔世遺伝でしょう
シンジ君に現れたのでしょうか

もじこのような時代じゃなければ決して現れることはなかつたでし
ょうね

シンジ君は

時代が生み出した稀有の少年それがシンジ君

これからは学校が終わつたら修行するからなシンジ

はい！兄さん

僕は強くなつて見せるレイのために

夕田に向かつて誓つシンジ君でした

シンジの修行（後書き）

シンジ君の修行編でした
なかなかうまく表現ができません
作者の力不足かもしません
ではまた次のお話を待ちください

レイの退院（前書き）

レイちゃんの退院です

レイの退院

レイちゃんの退院の日が来ました

待ち遠しい日々でしたレイちゃんにとっては
早くシンジ君と登校したいとながっていましたから
でも迎えに来たのはシンジ君じゃありませんでした

赤木博士が司令に命令されて迎えにきました
無表情のまま病院から連れ出されて司令が待っているレストランまで
連れていかれました

レイ退院おめでとう セットプランの実行に移れる
お前も余計なことを考えずこれからを過ごしなさい ゲンダウ

(以前は司令に声をかけられただけで心が温かくなってきたのに
今は司令の言葉もうれしくない こんなところにいたくない
心が寒くなつてこのを私は感じています
シンジ君といふと心がポカポカしてもつてシンジ君とお話ししたい
シンジ君ともつと話たいと感じている私です)

レイ

どうだレイこのレストランは最高級の料理を出す店だ
うれしいだらう

ゲン

ドウ

美味しいです司令

レイ

(レイ)の料理を食べてもちつともおいしくない シンジ君の作る弁当が
食べたい シンジ君の料理が食べたい
心がそう叫んでいます 泣いています
シンジ君 シンジ君シンジ君
でも言わないと司令が不機嫌になるのでおいしいと言わざるを得ない
() レイ

レイちゃんにひとつ居心地の悪い食事時間です 早く時間が来てほしいと
思うレイちゃん
なによりもつといやなのが赤木博士が一緒にいることがひとつでも
不愉快になるレイちゃん

(いつも私のことを実験動物のような目で見ています
以前の私ならそんなに気にもしなかったのですが
シンジ君と知り合ってからは赤木博士の視線が嫌で嫌でたまらない)
レイ

御馳走様でした 司令おいしかったです

レイ

また来よつ レイ ゲンドウ

ではこれから私は赤木博士に用があるので
レイはタクシーに乗つて帰りなさい

ゲンドウ

はい わかりました司令 これで失礼します レイ

タクシーが来たのでレイちゃんは帰りました

(途中で気分が悪くなり運転手さんにお願ひして
停車してもらつて私は公園のトマトで食べたものをすべてはいてし
まいました
口の中が気持ちが悪く公園でうがいをして
タクシーに乗りました 私のマンションではなく
シンジ君がいるマンションに行き先を変更をお願いしました)
レイ

シンジ君のマンションに着きました 早くシンジ君に
会いたいと思つてレイちゃんでした
シンジ君は今日レイちゃんが退院することを知りませんでした
ミカトさんも知らなことでした

シンジ君 シンジ君 シンジ君 シンジ君 レイ

(激しくドアをたたきシンジ君の名前を連呼している私
呼び鈴も押すのももどかしいほど焦っていました)

レイ

何事かと思いドアを開けたシンジ君
行き成りシンジ君に抱き着くレイちゃん
安心したらなでいたレイちゃん

レイ ベビーハートのそんなんに泣いて今日退院したの? 何がそんなんに悲
しいの
訳を話してレイ シンジ

退院したら真っ先にシンジ君のところに行きたかったの
でも司令に無理やり連れ出されて レストランで食事して
赤木博士にいやな目で見られて 心が悲しくなって 公園のトイレ
ではいて

うあああああああああああああああ

レイ

そうか そんな目にあっていたんだね 知らなかつたよレイ

退院日を僕が知っていたら真っ先に迎えに行つたのに

つらい思いをさせたんだね ごめんよレイ

僕はここにいるから安心していいよレイ

シンジ

うん シンジ君 レイ

今は僕以外誰もいないから安心して
ミサトさんも本部に行つて今日は帰つてこない
だからね 泣き止んでレイ

シンジ

女の子の涙にはとにかく弱いシンジ君
天地君も同じでした

(兄さん レイをここにとめてもいいね
このまま返したら レイがおかしくなるかもしね)
(うんそうしたほうがよさそうだねシンジ
シンジの恋人なら僕にとつても妹分だからね) 天地

自分のことは棚に上げてる天地君

今日は腕によりをかけてレイの退院祝いをしなくちゃ
楽しみにしててレイ

シンジ

真剣に料理してるシンジ君をついつりした目で見てるレイちゃん
おもむろに立ち上がりつてシンジ君の料理を手伝い始めました

レイ向ひのリビングで待つていいよ
テレビでも見てて

シンジ

いやー、シンジ君のお手伝いがしたい
だめなの？

出ましたレイちゃんのお願い攻撃
断ることができませんねシンジ君は

じゃあ テーブルにお皿を出して僕が盛り付けていくから
ンジ

はい シンジ君 レイ

うれしそうにテーブルにお皿を出していくレイちゃん
新婚さんみたいで
天地君もあきれるほどアツアツでした

(やれやれレイちゃんもうれしそうにしてるな
シンジもうれしそうだよ俺のいる場所ない) 天地

といつか今はシンジ君の精神にいる天地君
逃げる場所がありません 『愁傷様天地君

天地、は今鶯羽さんのラボで眠っています
天地、とはレイちゃんのコペー体のことです

楽しい食事時間を送ったシンジ君とレイちゃん

早々もう一人の同居人を紹介するのを忘れてたシンジ君

ベンベンおいで紹介したい人がいるから
シンジ

ワビングの冷蔵庫から出したペンギンのペンペン

レイに紹介するね 温泉ペンギンのペンペンってこうんだ
仲良くしてあげてね シンジ

こんなにちはペンペン
私
綾波レイといつもの
仲良くなれ

レ
1

くわああああああああ **ペンペン** 器用に糸をあ
げてます

人間の言葉がわかるペンギンなんだ
シンジ

そう 賢いのねぺんぺんつて レイ

そうだレイお風呂に入つてきて

シンジ君もいっしょ、 、 、 、 、 、 、
レイ

上田使ひでシンジを見ぬレイちゃん

ダメダメダメこれだけはレイのお願いでも聞けないよ
お願ひだから聞き分けてレイ

しぶしぶお風呂に向かうレイちゃんです

あ～～～びつくりしたつ レイがあんなこと言つなんて驚いた シ
ンジ

（俺も驚いたよ よく我慢したなシンジ）

でもまだまだ甘いシンジ君と天地君の二人です

シンジ君もお風呂に入つて 疲れを癒してきました
お風呂も入り楽しい時間を過ごした一人ですが
もう休む時間が来てしましました

レイ 寄間ににお布団敷いたからソロド休んで シンジ

シンジ君も戸締りをして自分の部屋に向かいました

眠りに入ろうとしたシンジ君行き成りふすまが開き
そこにレイちゃんがたつっていました

シンジ君さみしいから一緒に寝て お願いだから
シンジ君 ね お願い

レイ

今度は断れないと思ったシンジ君
おいでとレイちゃんを手招きました

(絶対に手を出すんじゃないぞ いいな シンジ もし手を出した
ら承知なしないぞ) 天地君
(もちろん手を出しませんよ 大切にしたいレイに悲しい思いはさせたくないよ兄さん) シンジ
(それでいい、それでいいシンジ) 天地君

向ひにこる天地の恋人たちには手を出せない天地君
よく言えたものですね

横で寝ているレイちゃんのぬくもりや吐息を感じながら
悶々として寝ることができないシンジ君でした

(頑張れよシンジ) 天地

勝手なことをいう天地君でした

レイの退院（後書き）

レイちゃんが退院してきました
ゲンドウに悲しい思いをして
泣きながらシンジ君のマンションに来たレイちゃんの
お話をしました
最後はラブライブで終わりました よかったねレイちゃん
ではまた次の話ををお待ちください

レイの登校（前書き）

レイちゃんの登校とノイケちゃんの登場

レイの登校

今日からレイちゃんが再登校します、待つべからず田舎へ向かってやるよ
んにま
いとじーシンジ君と一緒に勉強できます

「おはよう」

レイちゃんがあいさつしました
みんなが驚いた顔をしています
それはそうでしょう今までレイちゃんがあいさつしたことなかつ
たんですから

「どうしたのみんなそんなに驚いておかしいの私があいさつするの
が」

こんなにしゃべるレイちゃんをあんぐつとした表情でみんなが見て
います

「おはよう、綾波さんけがの具合はどうなの、大丈夫?」

「おはよう、洞木さん、ありがとうございました、心配か
けじめんなさい」

真打登場

「おせよひ、みんな、レイ出でたんだね、今日から頑張る」

「おはよひ、シンジ君、うんがんばる」

微笑みを浮かべて挨拶していました

「おはよう、碇君、」

「おはよう、洞木さん、レイのけがまだよくなーから、サポートよ
うじへ」

「うそ、任せおこて、碇君」

「レイ、洞木さん」、レイのことがお願いしてたんだ、女子は女子に
任せたほうがいいと

思つたから、以前お願ひしてたんだ

「僕にできる」とがあれば、何でもするけどね、そんな顔しないで、
レイ

少し不機嫌そうなレイちゃんです

「やうこいとは先に言つてほしけな、シンジ君」

「綾波さんやうこい」とだから、仲よしまじょひれからむ、ヒ
カリつて呼んで」

「あつがとう洞木さん、じゃなくてヒカリさん」

「――と、一人のやり取りを見ているシンジ君
周りのみんなも一人の周りに集まつてきました

「みんなもよろしくねレイのこと見てやつてね」

レイちゃんの笑顔が見たい男子は率先してするでしょう
女子はシンジ君にいとこらを見せたいがために頑張るでしょう

「碇君、綾波さんの」とはクラス全員でお世話するからね、ね、み
んな」

男女子が一丸になつた瞬間でした

しかし、その輪の中に入らない二人組がいました
そうですあの二人です、相田君と鈴原君です
以前のやり取りがあるため入るに入れない状態です

洞木さんだけは一人のことを許してはいませんでした

クラス委員である彼女は必要な会話だけしてあとは何も言わないで
クラスのみんなも洞木さんを気にして喋らうとはしていませんでした

自業自得とはいえ憐れとは思いますがいたしかたありません

「洞木さんもう彼らを許してあげてよ、僕からもお願ひするからね

ヒカリちゃん

ヒカリと呼ばれて内心うれしくなつてゐる ヒカリちゃん

「シンジ君がそういうなら、鈴原君、相田君が真剣に謝るなら」

後ろで女子が前の顛末をレイちゃんに話していました、
事の顛末を聞いたレイちゃん氷の無表情になり一人をこらんでいました

した

「レイ、そんな顔しないの、僕ももう氣にしないから」

「シンジ君がそういうなら私は、何もいなわシンジ君」

「ありがとうレイ、わかつてくれて」

氷が解けてまたにこにこしてきました

「鈴原君、相田君、謝らなくていいからね、僕ももう向も思つて
はないから」

「碇、ホンマにすまんワイがわるかつたこの通りや
頭を地面にするくらいの勢いで謝る鈴原君

「碇、本当に」「めんな、反省してる」

相田君も鈴原君と同じよつにして謝つていました

「碇、ワイのこと殴つてくれ、そつしてくれるとワイの男がたたん

「碇、トウジはこんなやつなんだ、殴ってやつてくれ」

「いや、僕は、鈴原君を殴らない、だつてもう友達じゃないか、殴る理由がないよ」

「碇あんたはホンマの男や、惚れたで」

「じゃあ僕のこと苗字じゃなく名前で呼んでほしい、僕も鈴原君もトウジって呼ぶから」

「シンジ、これからもよいしょしたって」

「相田君も同じにしてくれるかな?」

「わかつたよシンジ」

「よひしへ、ケンスケ」

クラスが一丸となる瞬間です真のクラス一丸が完成しました

(良かつたなシンジ、丸く収まつて)

(ええ、兄さん、本当に良かつたです)

「授業を始めるぞ、とその前に」

担任の先生が教室に入つてきました

「男子、喜べ、新しい副担任を紹介するから」

「神木先生入つてきてください」

きれいな女性が教室に入つてきました

「神木 ノイケです、短い間ですがよろしくお願ひいたします」

(ノ、イケ、さん、どうしてここに、、、、、)

(兄さん、ノイケさんつて兄さんの世界にいる婚約者候補ですよね)

(今は答えたくない、シンジ)

(天地様、ちゃんと紹介してくれないとダメですよ)

(はじめまして、シンジさん、神木ノイケ樹雷ですよよろしくお願ひいたします)

新任のノイケさんにみんなが質問してたとき

精神世界ではこんなやり取りをしていました

(もしかして、鷲羽ちゃんの仕業?)

(それもありますけど、瀬戸様の要請もあります)

(瀬戸様の、、、、、、ただでは済まないよシンジ)

(瀬戸様つて前、兄さんが言つてた樹雷の鬼姫といわれる樹雷の裏の最高権力者ですよね)

(そうです、シンジさん、瀬戸様に気に入られて無事に済んだ方はだれ一人いません、樹雷皇ですら瀬戸様にはかないません)

(、、、、、そんなすごい方なんだ、僕も気を付けないと)

(もう遅い、お前ももう田をつけられている)

(げつ、、、、、、助けてください兄さん)

(俺にはどうする」ともできないよ、あきらめシンジ)

(、、、、、、、、、)

(瀬戸様よりシンジさんに)

御託を聞いています

(シンジちゃん、そちらがつまへいつたらひかるこおこで、だそうです)

(断つたらどうなるかわからぬいわよ、ほつほつほつ、です)

(にいさあああんんん)

(シンジ、骨は拾つてやる)

(天地様にも御託があります)

(天地ちゃん面白いことになつてゐわね帰つてきたらしつかりお話してね、だそうです)

(終わつた、終わつてしまつた、帰りたくないあちらには)

(にいさあん、しんじいいいい)

(詳しい話はまた夜にお聞きしますね天地様)

といとん、不幸体质のシンジ君と天地君でした

隣のレイちゃんは一々一々とシンジ君を眺めていました

シンジ君は憂鬱な気分で放課後を迎えるました

レイの登校（後書き）

レイちゃんの登校シーンと
鈴原君相田君との仲直り
ノイケさんの登場をえがきました
面白くなつてきましたね

ではまたのお話をお待ちください

コラボレーションの密談（前書き）

下校中のシンジ君とレイチャんの会話
ワビングでおはなし

コヒングでの密談

憂鬱な気分のシンジ君「かたや二〇一〇気分のレイちゃん
一人そろつての帰宅している途中での会話

「どうしたのシンジ君、新人の神木先生を見た瞬間
す」「驚いた顔してたけど」

「前に話したことあつただろうレイが入院してる時に」

「ええっとシンジ君の精神の天地さんという方がいるって話」

「そり、天地兄さんがいるって話したよね」

「うん、きいた」

「実は、あの新任の神木先生、兄さんの婚約者候補なんだ」

「えつ、向こうの世界にいるつていう天地さんの・・・・・・」

「そり、何らかの方法を使って入り込んできたんだ」

今、天地君はシンジ君の精神に憑依して一人の会話を聞いてます

「カニ頭の鷺羽さんが何らかの方法を使ってこちらに呼び寄せた」

「カニ頭はひどいな、シンジ殿」

鷺羽ちゃんの登場

「わっ 鷺羽ちゃん、驚かさないで下さいよ」

「わっ 鷺羽ちゃん・・・・・びっくりした」

行き成り出てきた鷺羽ちゃんに驚く一人

「こんにちは、シンジ殿、レイちゃん」

挨拶を返す二人

「天地殿の場合、美星の介入、実験の失敗による爆発の結果こちらに無理やりとばされたけど」

「私やノイケ殿の場合は案外簡単だつたんだよ、天地殿といふ道しるべがあつたから、それさえ探せればね」

「見つけてしまえばあとは簡単、向こうの入り口にポイントマークーを作成し

「こちらの出口にポイントマーカーを打ち込んで道筋さえ作ればいい」

「簡単な作業で、探し出すのに手間取つてしまつたけどね」

「でつ私が先にこちらにきて作業したつて寸法で、シンジ殿であとからノイケ殿が来るといつ寸法さ」

「あの時はこちらにまだ実体化できるものがなかつたからアストラルボディー応急的に実体化できるようにして

あそこへいた看護婦さんの衣装を借りて着てたの、あの時は

「私以外の人選はかなり揉めたんだよ、リョウコは問題外あの子が来たらたぶんシンジ殿や天地殿がいっぱい困るよ」

「アエカどの場合、問題はないんだけど、やっぱり問題を起こす可能性がある、、、かもっ？」

(リョウコ)アエカさん確かに問題あるあるかも)

シンジの中でつぶやく天地君

「美星は論外、天地殿が飛ばされたそもそもその原因あの子がかわってうまくいったためしがない、リョウコ以上に危険な存在」

話しか聞いてないシンジ君でも想像できる

「ササニちゃんがいなくなつたら、向こうう餓死するよ」

「最後に残つたのがノイケ殿というわけさ、柾木家の常識人神木ノイケ殿」

(確かに、ノイケさんなら安心できるなシンジ)

(そうですね兄さん)

(でもびっくりしたよ、行き成りノイケさんが来たから)

「シンジ殿、頭の中では会話しない」

シンジを指す鷺羽ちゃん

「そろそろ、レイちゃんに断らずにレイちゃんズの数人を使わせてもらつたよ」

「それは鷺羽ちゃんに、私の姉妹預けましたから構いません」

「今実体化してるのは、天地殿、ノイケ殿、と私、予定ではユイ殿、あと数人さ、」

安心しない、シンジ殿、ものすごく反省して改心してるから」

「今はエヴァの中でもユイ殿は眠ってる、実体化の準備は済んでるあとはいつするかを待ってる段階さ」

黙つて一人の会話を聞いているレイちゃん

「え？ サルベージは失敗してるんですよ失敗の結果が私なのにつづ
くつづく」

「何度も失敗してる、 、 、 、 、 それがあの地下にいた魂のない私の姉妹たち」

シンジ君に抱き絞められながら泣くレイちゃん

「泣かないのレイちゃん」

「レイちゃんズのかすかな意識が言つてたよ、私たちのことは
気にしないあなたの幸せだけを追つてつて」

「以前にも言つたと思つけどレイちゃん、もう一度と自分の事
予備だとか失敗作とか言つたり思つたりしちゃダメだよ、いいね！」

レイちゃん

レイちゃんに優しく諭す鷺羽ちゃん

やつじつと優しく諭す鷺羽ちゃん

「あとは中で話しましょっ

リビングにて話す鷺羽ちゃん

「その時のカルベージは失敗するべくして失敗したのを
それはそつた、ゴイ殿はその時戻る意思はなかつたし、
ゴントロールしてたのが、今はマギの中にいる赤木ナオ口殿
ゴイ殿のに嫉妬してた赤木ナオ口が成功をせるわけないを
これが真実を、シンジ殿、レイちゃん、」

「いいレイちゃん、レイちゃんは生まれるべくして生まれたんだよ
でなければ、シンジ殿に会えなかつたんだよ、シンジ殿に会うのは
レイちゃんに課せられた

運命なんだよ、だから、シンジ殿と幸せになつなさい、それがレイ
ちゃんズに対する答えだよ」

「はい、はい、はい、絶対に幸せになります」

返事をしながら泣いているレイちゃん

「なぜ鷺羽ちゃんがそのことを知ってるんですか」

問い合わせるシンジ君

「ヒガアのゴイ殿に、マギのなかにいる赤木ナオ口殿に聞いたから

「シンジ殿に言つておくな、エヴァも、マギも私の手のつかうあるから

安心していいよ、マギは裏切らないよ、シンジ殿
エヴァはコイ殿がいるから味方だよ、シンジ殿、次にエヴァにのつたらおかあさんで

呼んであげなさい、きっと答えてくれるよ

「アーニャの机に赤木リッシュもいたいと寝返つてくれるよ

赤木リッシュと聞いていやな顔をするレイナちゃん

「レイちゃん大丈夫だよいやな顔しないでも、以前の赤木リッシュではなくなるから」

半信半疑のレイちゃん

「そうですか? 、 、 、 、 、 、 鶯羽ちゃん」

「任せなさいって私は 宇宙一 の天才科学者だよ
「細工は流々仕上げを」ハーフジラつて」

「ねつそこにいる天地、殿、」

いつの間にか部屋の中にいた天地、君

「大変でしたけど何とかなりそうです、鶯羽ちゃん、」

「マギのなかのナオ」さんが今、説得してると思っています、あと少し

だと思います」

そう答える天地、君

「わかつたよ天地殿、」

「わかつたねノイケ殿、事情は今聞いたら通りだから学校のほうと
ネルフのサポート任せたよ」

「わかりました、鷺羽様」

また、いつの間にカリビングにいるノイケさん

レイおやんせシシ君の膝の上に、この間叶かねぬむじりおつます

「遅くなつたので、今日は私がお料理しますね。みんなさん」「じゃあ僕も手伝いますノイケ先生」

「シンジさんはそのままレイさん起」すのは忍びないでしょう
それと家では、教師じゃないんですからノイケでいいですよ」

「わかりましたノイケさん」

ノイケさんがいそと夕食を作り始めました

今田も徹夜のマサトさんです

えびちゃんの料理が食べたい」と

ネルフの自分の執務室で書類に埋もれながら、わめいて勤務していました

コペングでの密談（後書き）

下校中のお話をヒビングでの密談
レイちゃんズの意思のお話でした

次のお話をお待ちください

マサニラの公使館（マニラ大使館）

マサニラの公使館にてアントニオ・コルテス
セサレ・マサニラ

シンジ君たちがリビングで密談してる頃、リツコさんの執務室では驚愕のことが起っていました

「第三使徒のサンプルねこれが、あとは分析をだけね、」

自身の執務室に備え付けてる「コーヒーメーカー」から「コーヒー」を持って
端末の前に戻るリツ「さん、マギからのアクセスがあるのに気が付
いた

「あら、マヤからなのね」と、こつもの通りマヤからのメールとおもてを開いた

「なになに、なにこれー、マヤからじやない？」

そのメールのアクセス元を調べたリツ「さん、アクセス元はマヤの端末から出されたものであった、しかも今の時間はマヤは家にいる時間、いないのは確認済みです

しかし、出されたものは、間違いなくマヤの端末からであった

驚愕しながらメールの続きを読む始めた

「拝啓、赤木リツコ博士、私は白眉鷲羽、知らない名前の人間からのメール

さぞ驚いてると思います、いまからあなたが読む内容は

貴方のアイデンティティー壊す内容です、今のゲンドウとの関係を維持したいなら

このまま破棄しなさい、でも、疑つてゐるのなら今から示すアドレスにアクセスしなさい」

メールの中ほどに示されたアドレスをクリックするリツコ
そこにはリツコの想像を絶する内容が示されていた、リツコの思考のする範囲を逸脱する

内容であつた、ゲンドウがこれまで行つた犯罪の証拠と、自身の母親赤木ナオコとの関係そして殺害の証拠、そして自分とゲンドウの関係を、そしてレイの過去が隠すことなく

明かされていた

「そんな、そんな、そんなことがあるわけない、あるはずがない
私はゲンドウに騙されていたの嘘よ嘘 嘘よ信じられない信じられない」

呆然としたリツコ、そして意識がなくなった

気を失つていたリツコが気が付いたのは午前3時を過ぎたころだった

そしてもう一つの端末が立ち上がつていた

「りつちゃん、りつちゃん、リツコ、」

もう一つの端末からの呼び掛けに気が付いたリツコ

そこには亡くなつたはずの母ナオコの姿があつた

「知つてしまつたのね、できれば知らないほうがあなたのためであつたのに

りつちゃん

「母さん、母さんは死んだはずよ、ちゃんとお葬式もしたのになぜ

セレニティの？

おじえでかあさん

「確かに肉体はもうこの世にはない、でも科学者ならバックアップを取るのは常識でしょう

ましてや、生体コンピュータであるマギを作ったのは私、だから肉体の一部分をマギに残すくらい

訳ない、かんたんなことよ

「それにケントウに殺される恐れのあつた私は余計にハックアッフ残さなければならなかつた」

「なぜマギが三姫のパソコンターであるか考えれば、おのずとわが
心はすでしょ

女 母 科学者のわたしのおもしろいをマキはとておいたの
そしてある方のおかげでただのコンピュータであつた私を生きてる
人間に戻してくれたの

肉体は機械だけど生きてる、生きてるのよ、わかつた、りちゃん」「

「母さんの事情は分かつたわ、じやあかあさんは司令に殺されたの？」

「そう、ゲンジウに殺された、完成したMAGIから突き落とされ

「わかった、つむちゃん、コシノ私のかわいい娘

「今ならまだ間に合うわゲンドウとの関係を終わらせなさい、まだ

「ひがいから」

の仕打ちは

許されるわけではないけど、まだ間に合つ、わかつて、リツコ、私
のように殺される前に」

母であるアサヒからの衝撃の事実に母の殺害、もつわながわからない
リツ

最近のゲンドウの行動、レイにこだわる姿、シンジに対する姿勢、考えれば考えるほどすべての謎が

きちつと解けていく
暫く潜考するリツコ

「わかつたわ、母さん、私はどうすればいいの？」

いきなさい

ユリティーカード
を作りなさい、

白眉鷲羽、神木ノイケ、柘木天地、のセキユリティカードをランク
はりつちゃんと同等の

タニス

「わかつたわ、母さん、その方たちはどういった関係なの？」

「サードインパクトを防ぐために絶対必要な方たちよ、人類補完計

画を

阻止するため協力を願ったの、そしてシンジ君とレイちゃんを守ってくれる方」

「わかつたわ」

「最後に、レイちゃんのことだけじゃ、あなたが学生の時したってた

女の子がいたでしょ

あの子が今のレイちゃん、かわいがつていたでしょ、りつちゃん」

「あの子が今レイ」「結局逆恨みしてたのねレイをいえユイさんを、それをレイに責任

転嫁してたのね

「ロジックじゃないわね人生って」

רְאֵתִי כָּל־עַמּוֹד אֲלֵיכֶם רְאֵתִי כָּל־עַמּוֹד

猫のように、目を細めて笑うナオコさん

「さてと、もうこんな時間が

少しこそ黙つてゐる

「お休み
かあさん」

「お休み」ハハサヤン

端末のすべての電源を切るりツーさん
そして執務室の備えられて

簡易ベッドで横になるリツコさん

マギの中のナオトさんは鷲羽ちゃんにメールを送りました

「子猫ちゃんを手離さなかった、あとで鶯羽ちゃんに任せます」

作に戻りました

ルイ二世の死

まだ終わらない書類の束に愚痴と涙をこぼすニサト

「おわらひなこ~~~~~」

「アビサス~~~~~のサト~~~~~

」

「シノヲモハシテル」

「」

馬鹿の鞆の室で、刀身で机めく三十二

モードル・アーティストの研究

憐れミサトさん

マギの世界、コシノヒロの嘘（後編）

眞実を知るリツ「せん、ゲンドウからの離別を約束した
リツ「せん、協力を約束するお話でした

では次のお話までお待ちください

ある日の天地（前書き）

偶然のアクシデントに見舞われる天地君

ある日の天地

シンジ君とレイちゃんが学校に行っているあいだのお話

一つの暗躍が終わった天地、君、気晴らしに町を歩いてました
そして徹夜明けのマヤさんにぶつかった

「きやつ」

「大丈夫ですか、お姉さん」

手を差し出す天地、君

「『めんなさい』、よそを向いて歩いてお姉さんに気が付かずに
ぶつかってしまいました、『めんなさい』」

「いえこひらひやん、私のほつも氣が付かなかつたから、気にしない
で」

「いえこひらが悪いんですからお姉さんが来ている洋服が
汚れてしましました弁償させてください」

偶然、天地君が持っていたジユースとクレープが見事にマヤの洋服
をよじりてしましました

しかも着ていた洋服が薄手のTシャツにだつたものだから余計透け
ていました

「きやあ、見ないでお願いいだから、ね、みないで、」

とつたに隠したものだから余計に汚れが大きくなつて悲惨な状態に

なり

もっと動けなくなりました

真つ赤なかおの天地君自分が來ていたジャケットを差し出す

「あのーとりあえず僕のすみませんがこのジャケット来てください
お願ひします」

真つ赤になりながら天地のジャケットを受け取るマヤ
見えないよう素早く着るマヤ

「ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい」

必死になつて謝るシンジ君

「もうそんなに謝らなくてもいいですお互い不幸な事故なんですか
ら」

必死になつて謝る天地がかわゆく見えるマヤ

「お詫びにお姉さんの洋服を買いに行きましょ」

「いいえいいえそんなの気にしないでいいからと」必死に断るマヤ

「そういうわけにはきません、迷惑をおかけしたんですから
当たり前のことです」

と、引き下がらない天地君

あまり男性とお付き合つことがないマヤは必死に断ります
暫く問答を繰り返した二人、
やがて根負けしたマヤ

「わかりました、」厚意をお受けします、」

「ありがとうございます、お姉さん」

「名前教えてもらえますかお姉さん、いつまでもお姉さんと呼ぶのもいけないですから」

「僕の名前は桝木天地といいます」

「私の名前は伊吹マヤです」

「マヤお姉さんですね」

とこり答える天地に、男性経験のないマヤが落ちるのはそんなに時間がからなかつた

「なんて素敵なお顔できるの、シンジ君と同じお顔ね、天地君というのかわいい」

と、思いながら一緒に洋服を買いに行くマヤと天地

「これなんかどうですか？マヤお姉さん」

「ちょっと派手かな、天地君」

「じゃあこっちはどうですか」

結構まよいながらマヤのために洋服を探す天地君

「なんか恋人同士の会話みたい、きや」

と思いながら真っ赤になつて自分の洋服を探すマヤ

ようやく天地君の選んだ洋服に決めたマヤ

お店で着替えて会計をするとしたマヤ

もう天地君が支払つた後でした

「わるいわ、天地君高校生でしょそんな大金支払わせて」

「いえ、僕が悪いのですから、支払うのは当たり前ですマヤお姉さ

ん

「でも、 、 、 、 、 、 、 じゃあこの後暇ですか天地君」

「ええ、 特に何もする」ともないですから時間はあります、 マヤお姉さん

と笑顔で答える天地に完全にノックアウト状態のマヤさん

おこおじ、 、 、 、 男性に免疫なさすぎですよマヤさん
ところが高校生の天地君に一目ぼれしてしまつマヤさん

「ならこれから食事しに行きましょう、 幸いおこしに店知ってるか

ら

「えつそれこそ悪いですよマヤお姉さん」

「いいからいいから」

無理やり天地君を連れて行くマヤさん、 男性恐怖症はどうこつた
と叫びたい作者です

いつも男性に対し臆病なほど奥手のマヤさん

連れていかれたのこじんまりとした清潔そうなレストラン

「ここのお店私のお気に入りなのよ、 たまに先輩と来るのよ

「そうですか、 ちなみにその先輩って男性ですか」

「違うわよ、 女性よ、 私の尊敬する科学者よ」

科学者と聞いて少し引く天地君

「大丈夫、 素敵な女性よ先輩は、 天地君、 なんか天地君とお話

してると今いる職場の上司の「子息と同じ感じがするのよね

「そうなんですか、 一度会いたいですね、 その子に」

「かわいいわよ、 弟がいたらあんな感じなのかな」

「天地君は違うわよ」

真っ赤になつて口もるマヤさん

楽しくおしゃべりして食事を楽しむ一人でした

帰り際にマヤさんは自分の端末のメールアドレスと携帯の電話番号を天地君に教えていました
天地君も自分に「えられてあるメールアドレスと携帯の電話番号を教えました

「今日ははじになりました、マヤお姉さん」
「素敵な洋服をありがとうございます、天地君」
「また会ってくれますか、天地君」
「ええ、時間が許す限りマヤお姉さん」

この日を境に天地君に急速に接近していくマヤさん
何度も「デートしますます好きになつていったマヤさん
そして天地の素性を知つても驚くこともなく天地君に協力していく
マヤさんでした

偶然に知り合つた二人でしたがつまくいってよかつたよかつた

ある日の天地（後書き）

マヤさんと天地君が知り合つお話でした
マヤさんの大胆さに驚く作者でした

また次のお話を待ちください

冬月の過去（前書き）

冬月副指令の過去の回想

冬月の過去

「私は特務機關ネルフの副司令である冬月コウゾウ」

（（一〇年前の職業は京都大学形而上生物学の教授をしていた私が主催する形而上生物研究室に一人の生徒が入ってきた

その生徒の名前は碇ユイ

「ユイ君は名家の碇家の長女で天才の名をほしままにしている才媛、名家の子女というのをあまりひけらかさない気さくな女性学部は違うがその友達には惣流・キヨウコ・ツェツペリン、その先輩で赤木ナオコ」

という三人がよく私の研究室に入り浸っていた」

「教授）教授は奥さんもらわないのですか？ユイが立候補しましょうか？」

「教授に似合うのはこの私赤木ナオコですわ」

「プロフェッサーに似合うのはこのワタシネ、惣流・キヨウコ・ツエッペリンイガイにはナイね」

「おいおい年上をからかうもんじやないよそれに結婚できなわけじゃないんだよ
好きな女性の一人や二人いないわけじゃないんだよ

「それは知っていますよ先生がおもてになるのは知っています・・・

」

「父が言つてましたよ、冬月は昔からもててたからな、あいつは同窓生の中で

最後まで結婚しなかつた唯一の男だつたと
もてる癖に結婚しないから余計に見合にさせらるんだつて張り切つて
見合い進めて「い」とく断つていたからなと「ほしてましたよ」

「ははは、コイ君の父上は「ある」とに私に見合に進めてきて
るいまもね

困つたものだ君の父上には

(しかし私の心中にはある女性が住んでいる、コイ君のお母さん
コイ君と違ひ普通の女性だつた、優しくて明るくて穏やかな笑みを
浮かべる

タンポポのような女性)

(やうあればいつのことだつたかなと私が高校生の時だつた
ある雨の日に、傘を忘れた私はある本屋のまえで雨宿りしていた
その本屋に偶然その子が本を買いに来ていた、あわてていたのか
私にきずかず私にぶつかってきた、私は勢いを殺すことができずに
こけてしまつた、制服はびちょびちょになつて汚れてしまつた

私は立ち上がり、「君、怪我はないかい、あわてていたようだけど」「

その少女は言つたのは、父に頼まれ本を買いに行く途中で雨に会い本
屋に飛び込んだ
所、私がいたといふことだつたらしい

その少女は必死になつて謝つてきた

「「めんなさい、私が飛び込まなければあなたはぬれなかつたのに

本当に「」めんなさい」

幸いにしてけがもなくただ濡れただけだから
「気にいしないでいいよ」
とその女の子にいい、もういいやどうせ濡れてしまったから
と足早に、雨の中を去つて行った、
もう会うこともないとその日のこととは忘れていた

それから半年後、私はまた彼女に会つた、

京都大学の入試試験会場で

私は驚いた、あの時の女の子がそこにいたから
「あの時の君、君も京都大学に入学するのかい？」
私に声をかけられてびっくりしていた女の子

「その節はどうも迷惑をおかけしました」

「はい、父がこの大学に勤めているので自然と田舎すようになりました」

「ちなみに聞きますがお父様のお名前なんと言つんですか？」

「父の名前は碇」と申します」

形而上生物学という学問の世界では超有名な学者で京都でも指折りの名家としても知られる

私も彼を目指して形而上生物学学者になるためにここを目指して勉強していました

なんといつ偶然でしょう、運命を感じました、彼女に一目ぼれしていました

高校時代は結構もててた私ですが、私の初恋でした

しかし運命は皮肉なものでした、彼女は名家の子女であり世界的な

権威がある

学者の娘、それに引き替え私は下町に住む普通の会社員の子供、釣り合ひはずもありませんでした

彼女は文化学部、私は形而上生物学部に入学しました

私は彼女への思いを胸に秘めて大学に通い始めました

学部は違っていましたが、彼女とは結構仲良くキャンパスライフを楽しんでいきました

そしてあるクリスマスイブの日に彼女に告白しようと彼女の家の前で待っていました

しかし何時まで経っても彼女は帰っては来ませんでした

その時にはもう彼女には婚約者があり、結婚も秒読み段階だということを

しかもその婚約者が私の高校時代の大親友で相思相愛の間柄ショックでした、死のうとまで考えた、しかし親友が選んだのが彼女でよかったです

実直を絵に描いたような男の奥さんになるとあきらめました

大学を卒業すると同時に彼女は結婚していました

それからの私は彼女を忘れるためにものすごい勢いで猛勉強しました、何度も論文をだし、教授からも教えていただき無我夢中でした、何とか失恋の痛手を乗り越えることができ助教授になり教授になり色町では結構な浮名をながしていました

そんなある日、運命の皮肉ですね、彼女の娘であるコイ君と六分儀
ゲンドウが京都大学に入学してきた

かわいがりましたよコイ君を、自分の娘のように

そして運命は巡る、

コイ君から六分儀と付き合つてることを聞かされた
ゆくゆくは結婚も望んでいると

六分儀は何かと問題をおこし、コイ君にたのまれたわたしがよく尻
拭いをしたこともあった

「もう我慢できません、教授、私六分儀さんと結婚します、父には
反対されても」

とコイ君に聞かされて悩んでいるときには、
、親友にも相談され

「六分儀なるものがコイとの結婚を望んでいるだがわたしは反対だ」
「どこの馬の骨ともわからん奴に大事な娘をやれるか」

「冬月お前もコイのことをかわいがつていただろう」

「冬月お前はどうなんだ、賛成なのか？、反対なのか？」

親友に聞かれたが明確な返事ができなかつた

そういううちに一人は駆け落ちしていった

そして数年後、コイ君から手紙が来た、結婚しました

そして息子ができましたと

手紙が来た、写真が同封してあり、

「父に見せください私たち元気で暮らしていると、そして孫ができました」

私は親友にコイ君からの手紙と写真を渡した

あんなに反対していたはずなのに手紙と写真を見せたら涙を流していた

変われば変わるものだと孫ができたらあんなに変わるのかと驚いた

そして一年後

私はユイ君に箱根に来いと呼ばれた

そこには彼女の親友たちもあり、何かの研究していた

ゲンドウと再会した

「先生、冬月先生その節は大変ご迷惑をかけました」と謝罪してきた

元気でいるならそれでいいと答え

帰ろうとしたところ

私に見せたいものがあると地下の研究室に連れていかれた

そこにあるものの説明をゲンドウにされた

「先生、これは、人類の進化にとても有効なものです
先生の研究にも絶対欠かすことができないものです」

ゲンドウは言い放つた

「こーーー冬月」

呼び捨てにしおった私を

「これを見せた以上冬月先生にもう帰る場所がありませんよ」と猫なで声でゲンドウが言つた

「ユイも承知している」

そして私の背後には大きな権力があるとも言つた

とりあえず帰らなければと思いゲンドウの制止を振り切り京都に帰

つた

無くなつていた私の自宅が、私の生活が大学教授としての地位のすべてが

無くなつていた、呆然とした

そしてゲンドウの言つた権力大きさに恐怖した

もうここに帰ることができないと思つた私は箱根に帰つて行つた

それから一年後

運命の2004年が来た

実験前にコイ君は言つた

「シンジには明るい未来を見せてあげたいと、幸福な未来を」と
そのためのエヴァの実験ですと語つた

しかし実験は失敗した

コイ君はEVA初号機に肉体」と取り込まれて同一化した

サルベージを試みたがこと」と失敗した、そしてコイ君の葬儀を
ゲンドウが執り行つた

コイ君の葬儀が終了した後ゲンドウにシンジ君のこと聞いた

「シンジ君はどうするんだ、」
「シンジは私の親類に預けます」

シンジ君を連れてゲンドウは旅立つた
そして失踪した

「コイ君に惚れていたからなゲンドウは
とひとり呟いた私

そして数日後ゲンドウは小さな女の子を連れてきた

「私の親戚の子です、今日からここに住まわせます」
シンジ君がかわいそうじゃないかと怒つてみたものの、他人の私に
どうこう言える

立場ではないと、家族でもない私が立ち入る問題ではないと怒りを
おさめた

そしてゲンドウが連れてきた女の子は赤木ナオコに預けられたと後
でゲンドウに聞かされた

それからは研究や組織創設のために走りまわされ現在に至る（）

思考の海から戻った私

気が付くと私の端末に奇妙なメールが来た

先出し人を確認した

差出人は碇ユイ

驚いたものすごく驚いた

ユイ君はエヴァの中に取り込まれているはずなぜ
とり込まれているはずのユイ君からのメールがと
内容を読んだ

「拝啓、冬月先生いえ冬月副指令、今からいつアドレスにアクセス
して内容を
お読みください

メールの中ほどにあるサイトをクリックした

「そこにはゲンドウがこれまで行つた犯罪の記録が示されてあつた

そう赤木リツコが読んだ内容と同じものが事細かく書かれていた証
拠付きで

驚愕したそして猛然と怒りを覚えた、ゲンドウは私をもだましていた

そしてメールの最後にこうつ書かれていた

ユイ君の懺悔と私への協力要請であつた

「先生、私はゲンドウに騙されました、そして先生をも欺きました
お詫びしても足りないくらいに反省しています、シンジにも耐えが
たい苦痛を与えました

そして後悔しました己が犯した罪を」

「そして先生にお願いがありますシンジを守ってください、そして

レイちゃんも

お願いします先生」

切々と書いてあつた

私は誓つたシンジ君をレイを守ると

自分が果たせなかつた思いをシンジ君とレイに果たしてもうつために

最後にこう書いてあつた

「ちかじか私はある方のお力をかりてそちらに戻ります、それまで
さよなら」「

と

またまた驚愕した

ユイ君が戻つてくる、ユイ君が、・・・、

今度こそ守るユイ君をわが娘、血はつながってはないけど私の娘を

新たな決意を胸にして

私はユイ君に示されたようにこのメールを処分した

冬月の過去（後書き）

リツコさん、マヤさんそして冬月副指令の三人が
ようやくシンジ君の仲間入りです
ゲンドウ包囲網が完成しつつあります

ユイさんの帰還

面白くなつてきましたね

では次のお話を期待してください

初号機再起動実験（前書き）

初号機の再起動実験のお話です

初号機再起動実験

今日はシンジ君の訓練日です

そして第三使徒を撃退してから初めての訓練日です
そして司令もいません

思い切り訓練ができます、気負わずに訓練に集中できます

副司令、リツコさん、天地、君、レイちゃん、ノイケさん、鷲羽ち
ゃん、ミサトさん、マヤさん
が見守るために集まっています

副司令がシンジ君に言葉を与えました

「シンジ君、気をわなくていい、ここにいるのはみんなシンジ君の
味方だよ安心して訓練に励みなさい、そしてコイ君に甘えてきなさ
い」

「はい、副司令、頑張ります」

「コイ君によろしくと、それと私のことは副司令とは呼ばばず、先生
と呼んでくれるかな

もちろん、ゲンドウがいないことを限定だ、シンジ君にやう呼ばれた
いんだよ」

「はい先生、これでいいですか」

次にリツコさんが声をかけてくれました

「シンジ君、訓練だけど容赦はしないわよ、終わったらおじしい口
一ヒー飲ませてあげる」

「頑張りますリツコさん、美味しいコーヒー期待しています

天地、君も

「シンジいつも俺との訓練と同じよつとすればいい、頑張れよ」

「はい兄さん、頑張ります」

レイちゃんも

「シンジ君、無理しないでね、心配だから」

泣きそうな顔のレイちゃん

「そんな心配しなくてもいいよ、みんなしてくれるから、ね、レイ笑つて」

無理やり微笑むレイちゃん

ノイケさんも

「シンジさん、頑張つて」

鶯羽ちゃん

「シンジ殿なうでもある、がんばつて」

ミサトさん

「シンジやん、ファイト」

マヤさん

「シンジ君なうでもある、頑張つてください

「みんなありがと『いざれこ』ます、頑張ります、ありがと『いざれこ』ま

す」

副司令が声をかけます

「でははじめよう、総員配置に着け」

全員で返事をします

「了解」

副司令、コソ「れぞ、鶯羽ちゃん、ミサトさんは指揮所で
マヤさんは

マギ端末の自分の席で、ノイケさんはマヤさんの隣に座り
レイちゃんは見学室で様子を見ています
準備完了」とマヤさんが言います

シンジ君はエントリー・プラグに乗り込みます

リックさんが指示します

「Hントリー^アプラグに」、じ、じ、「注入」

Hントリー^アプラグに」、じ、じ、「注入されます

「Hントリー^アプラグに」、じ、「注入終」」

「シンジ君はどい？」

とリックさんが聞きます

「「、じ、「ってお」しくないですね」

「仕方ないわよ、食べ物じやないんだから我慢して」

ミサトさんがきつく言こます

「男の子でしょ、それくらい我慢なさい」

シンジがミサトさんに言こ返します

「わかりました、ミサトさん、えびちゃんの牛乳」、じ、「と交換しますね

それとこれからは食事中のビール禁止しますね

さわやかな笑顔できついことを言います

「シンちゃ～～んそれだけはかんべんして～～～これ以上減らされたら死んじゃう」

じつと笑いがこだまします

リックさんが一言「雉も鳴かずば撃たれまい」

もつと笑います

「きびしか～～～～～～～～～～～～～～～～

ミサトさんが黄監ています

「さて緊張もほぐれたよつね」

とリックさんが再開を指示します

「Hントリー^アプラグ挿入」

Hントリー^アプラグが挿入されます

「主電源接続」

「全回路動力伝達」

「第2次コンタクト開始」

A10 神經接続異常なし

初期「ンタケ」全で異常なし

双方向回総開きます」

「ノーマニカ」

卷之四

「シンクロ限界突破します」

卷之三

「おまかせがいいの、ノンジ殿は、

「始まつた」

卷之三

「ジンジ君……」

卷之三

一かあさへん

卷之三

「やつと会えた、母さん」

このめいれいの鳥が母を語じて

「むつこ二郎、母ごちの身一済んだことだか

謬べなくても

泣き崩れるユイさん

「「」めんね、「」めんね、「」めんね、「」めんね
シンジ君が逆に慰めます

「念えただけでもう十分だよ、それにいざれ外に出るんでしょ」

返事をするコイさん

「ええ、必ず出るわ」

「ならいいよ、待ってるから母さん

「もう限界時間だから向こうに帰るね、またくるね」

「レイちゃんに会えるの楽しみにしてるわねシンジ」
レイちゃんの名前が出るだけで真っ赤になるシンジ君

「じゃあねシンジ」

「シンクロ率戻ります400・・・・200・・・・100・・・

50・・・20・・・・0」

「シンジ君エントリー プラグ内に戻ります」

実験終了します

「Hントリー プラグ排出、Lシル排出」

Hントリープラグがエウトから排出されました

シンジ君は元気に出てきました

みんながHウアの前に集まつてきました

「大丈夫かいシンジ君 会えたかなコイ君に」

「はい、元氣にしてました、先生」

「シンジくーくーくーん」

レイちゃんがシンジ君に抱きついてきます

「ルシ」が服に着くよ

「構わないわついても」

ほほえましい雰囲気があたりに漂っています

「うつうつほん着替えてきなさいシンジ君」

「はい、先生」

「行こシンジ君」

レイちゃんに引っ張つていかれるシンジ君でした

「レイも心配だったんだね、自分の時は失敗してたから
「とにかく実験は終了した、今日はご苦労だったね、
みんな疲れてるようだから 解散！」

無事シンジ君のエヴァの再起動が終了しました
次はどんなことが起こるんでしょうか・・・・・

初号機再起動実験（後書き）

再起動も無事終わりました
次はどんなことが起こるやら楽しみです

では次のお話をお待ちください

仄の光に照らされて（前書き）

レイちゃんの引っ越しです

月の光に照らされて

再起動実験が終わつたあと遅くなつたためレイちゃんを家に送るためネルフ本部を出た後のお話でした

「レイ遅くなつてごめんね、こんなに遅くなるつて思わなかつたからレイの部屋まで送るよ」

「ううん気にしないで、実験で遅くなる」とは今まであつたから気にしないでシンジ君

それに私たちの周りにはガードのお兄さんがいるから大丈夫」

＜チルドレン専用のシークレットサービス＞

各種の武道の達人、重火器の名手、スパイそこのけの諜報活動ができる

要人警護のエキスパート、唯一ゲンドウの手が及ばない男たち、チルドレンをわが子わが娘のように

かわいがる愛情おおき男たち

それがチルドレン専用のシークレットサービス通称ガードのお兄さん
ゲンドウが用意した肩は早々に退治して入れ替わつている冬月副司令の用意した最高の男

その名は服部半蔵、

その昔徳川家康を陰で守り通した男の子孫、伊賀忍者の棟梁が服部半蔵

小さい時のコイに出会いコイに忠誠を誓いコイのためなら死をも恐れない男

その男が率いる軍団の名を影の軍団、陰の世界では知らないものがいない男たち

「ガードのお兄さんがいるから私たちは安全なよシンジ君」

「とは言つても女の子が人で夜道を歩くのは良くないよ」

「ありがとう、シンジ君、大好き」

影の男たちも微笑ましい光景に笑みを浮かべている、しかし、警戒は怠らない

そしてレイのマンションに着いた

「シンジ君お茶でも飲んで行つて、紅茶の美味しいものがあるから」「今日はこれで帰るよ」

「そんな」と言わないで、さみしいの、お茶飲むだけの間でいいか

卷之三

シノジ 帆一(まつ)一

た、とことんレイちゃんに甘いシンジ君

「やあ一木たけ頂おぼす」

『三都の

風景に驚愕するシンジ君、おもむろに電話を掛ける

卷之三

卷之三

「もしもし先生ですか？」

「おおシンジ君、こんな時間にどうしたんだい？」

少
レ
の
部屋
に
い
て
不
い
か
た
ま
る
部
屋
を

住まわせてるんですか？僕には耐えられません！今すぐ住所変更をお願いします

先生は知ってるんですか、

えらい剣幕で冬用の食つて掛かるシンジ
「ちょっと待て調べてからもう一度連絡するからそこで待つてく

れ

「はい」

「がちやう」

冬円さんは専用回線で服部に連絡を取る

「冬円だがレイのへやを確認してくれ、そして必要であればシンジ君の命に従ってくれ」

服部「了解」

そして服部が確認しに来る

「あつガードのお兄さん」

部屋の中を確認してまた冬円に電話する服部

冬円は冬円で調べた、服部からの連絡と一緒にから調べたものを加味しシンジに連絡する

「シンジ君すまない、こちらの手落ちだ、ゲンドウの馬鹿が、指示していたようだ

早急に部屋を用意するからそちらに移っててくれ、どうですか？君が住んでるマンションに

用意するから

「部屋の番号は 号だ」

「ミサトさんの部屋のとなりの部屋ですね」

「わかりました、ありがとうございます」冬円は「先生、早々のお願いを聞いてくれてありがとうございます」とおもい、「

「コイ君の息子のたのみを聞くのは私はうれしいんだよ、これからも頼ってくれ、シンジ君」

「はい、先生」と電話を切るシンジ

そしてシンジは服部に指示ました

「服部さん、すみませんがレイの部屋にあるものを僕が住んでる部屋の隣の部屋に運んでください」

お願いします」

「若、了解しました、少しお待ちください」

服部が合図すると、どこからともなく数人の男たちが音もなく入っ

てきた

「この者たちは、私の配下の者、若やコイ御嬢様を陰からガードしておりました者たちです」

「若？僕はそのように呼ばれる者ではありませんよ、ただの少年ですよ」

「若是若です、コイお嬢様をゲンドウに奪われた時はどれほど悔しい思いをしたことか

でもこれからはご安心ください、ゲンドウの魔の手から必ずお守りいたします若とレイお嬢様を」

服部と服部の配下がシンジとレイの前でひざまずいた

「わかりました、そういう事情ならこれからもよろしくお願ひします、服部さん」

レイちゃんもお辞儀します

「服部のお兄さん、シンジ君を守つてくださいね、お願ひします」

「この服部、レイ様にも忠誠を誓います」

「でははじめます、それっかかれ」

音も立てずにレイの部屋のものを運び出す男たち
そして荷物を運んで行つた

「若では失礼します」

シンジ君とレイちゃん一人で微笑みました

「若だつて」

「レイお嬢様だつて」

微笑みながら一人はマンションに帰つていきました

月が一人を照らしながら

仄の光にて照らされて（後書き）

レイちゃんの部屋を見たシンジ君驚いて
引っ越しを仄町までお願いする
お話をした

ではまた次のお話をでお待しあげれど

鷲羽 鷲門の眞実（前書き）

鷲羽が体験したサーブインパクトの、じつけ
そして思い

さて天地君が飛ばされて幾日たつた柘木家のお話をしましょう

「鷲羽さん、ごめんなさい 許してください、反省します」

美星さんが必死になつて謝つています

「今回は、どんなに謝つても許されないわよ美星殿」

「あんたがやつたことは家中で済ませるにはあまりにも大きすぎるので、私がかばおうとしてもどうにもなんないね、ただの失敗だけなら私にだけ影響があるなら

いいけど、天地殿を巻き込んだことが、最大の失敗なんだよ」

「私にも責任がないとは言わないけどね、とりあえずG.P.アカデミーに行つてきなさい

「どういう結果があるか、向こうに行かないとわからないわよ
私もできる限りはお願ひしてみるけど」

「美星の後始末はとりあえず後回しにして、天地殿を探さないと、考えつるあらゆる探査システムを開発しないと、あと次元神にも探索せましょ！」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「まず、天地殿の血液採取して、次の検査項目を用意してるとき

美星殿が私宛に手紙を持ってきた。」」まではいゝも通り

「私が手紙を読んだときに、美星殿がどのボタンを押したかがわ

かれば
・
・
・
「

記憶を巻き戻しています

— — —

「手紙に貼つてあつた切手」

「切手、切手、切手なんの切手かわからば」

「記憶を巻き戻していますきゅ

— STOP —

「アニメの絵が描いてある切手、それだ

— 1 —

もう一度次元神を呼び出す

「お呼びですか、」

「今度はアーメという次元で探査しなさい」

「わかりました、鷺羽様」

し

「」の次元は亦

「六次元」の世界

『新編和漢書』

卷之三

し

し

し

「、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、」の次元に足跡あ

L

一
鶯羽様見つけました」

「そなはどアーメ?」

「新世紀エヴァンゲリオンの世界にかすかな痕跡を見つけました」「見つけたといつてもまだアプローチするわけにはいかない、今下手な干渉はできない

今したら痕跡はおろかその世界そのものの崩壊が起こる、神といつてもこういう時は無力なもんさ

どうしたもんか・・・意識／・・・同化・精神・・・憑依・・・

・・・・・これが

意識を数値化し物語の作者の精神に同化それを痕跡に憑依すればうまくいくかも

۱۸۷

つなみ皇家の木システム起動しなさい、ときみ、あなたの次元の手を発動

「はい」「はい姉さま」

「いくよ、二人とも同化、憑依、つなみのちから、ときみのちから、

私の力

すべての力よ光とともに貫け、

数値化された意識が神のちからを使って同化し作者の思いに憑依してみちが開かれた

「しかしなんだね、意識してこの道を作るのに大分かかるのに
美星の血筋はことなくおこなつてしまつ、神の力の限界を感じる
ね」

「座標固定ポイントマークー固定、さてどこにつながるかは行つてみないとわからないね」

光の道を進む鷲羽しばりくして終端に到着

着いた先は暗い暗い暗い巨大な少女のモニュメント、赤い海

赤い海に手を浸す鷺羽

「なにこれは、どこの世界」

そうですが、鷲羽ちゃんが到着した世界はサートインバクトが起こった世界でした

そつと少年の後ろに立ち記憶を探査さまざまな記憶が鷺羽に流れ込
んで来る

卷之三

罪、そして怨嗟しか発しない意識の海。二二二二の少女、気が狂して

そして話しかけてくる少女の意識

「あなたは誰？」

「碇君を助けて、わたしは何もできない、あなたならできる、お願
い」

「あなたの名前は？」

「名前、綾波レイと呼ばれたものの意識の残滓」

「もう私は消える、お願い、、、、、い、、、、か、、、、り、、、
くん、、、、を、、、、、」

少女の意識は消えた、そしてすべてのものが消えた世界
そこにたたずむのは鷲羽ひとり

涙する鷲羽

「わかつたわ、レイちゃん、あなたの願い、この鷲羽が必ず叶えよつ
三神の女神の名にかけて」

そしてどこからかわからない所からかすかに聞こえる感謝の言葉
「あ、、、、、、り、、、、、が、、、、、と、、、、う、
そしてまた探す今度は簡単です、同じ座標にいるから
天地殿の意識を見つけました

2015年第一東京市の伊集院家にたどり着く鷲羽
そして忍に知り合い自分が見た光景を忍にも見せる

忍は即座に協力を承諾、そして天皇に会う、天皇にも同じことをする
協力を要請、即座に快諾

そして数日後、第三東京市ナルフ病院にポイントマーカー設置

そしてシンジに会つ

「どうしたのかな 天地殿」

如何だったでしょうか

では次のお話ををお待ちください

テー^ト（前書き）

待ちに待つた『テー^ト』の日が来ました

パーティー

今日はレイちゃんが前から望んでいたパーティーの日です

前日学校のヒカリさんや友達にお願いして、洋服やアクセ選んでもらうため

一緒に「デパートやブティックめぐつをしました

「レイさんは、華やかな洋服よりも、清楚なお嬢様ファッショング似合つと思つよ

いつもは制服しか着てないから、余計似合つとももつ

、ヒカリさんが言いました

「水色のスカートに薄いピンクのブラウス、、白いジャケット、シリバーのネックレス、

白い麦わら帽子、みんなが一生懸命選んでくれました、うれしかった、

胸に温かいものがあふれてくる、こつの間のか涙があふれきました

ヒカリさんが優しく抱きしめてくれました

ケイコさんが「これで碇君もいぢりよ、」と微笑んで言つてくれました

「私はお礼に、みんなにお昼に誘いました、Mドナルドで楽しいおしゃべりを

しながら楽しい時間を送りました」

夜ははドキドキして眠れませんでした、楽しくて、明日はどうなど連れて行ってくれるのか、シンジ君は教えてくれませんでした

翌朝は早く起きておめかしです、お化粧も初めてします、仕方はヒ

カリさんが

教えてくれました、シンジ君喜んでくれるかな

そして、玄関のチャイムが鳴りました

そして玄関を開きました

「レイ、用意できたかい、、、、」

玄関を開けたシンジ君はレイちゃんの姿に驚きます

「レイ。。。。。きれいだ、、、、どこかのお嬢様みたい」

「シンジ君、ありがとう、褒めてくれて

嬉しくて涙が出そうになりました、でも泣きました、泣いたらお

化粧

がくずれてしまつから」

「鷺羽さん、ミサトさん、兄さん、行つてきます、

「シンジ殿いつてらしゃい」「たのしんできて」「しつかり遊んで
来い」

「いってきまー」「行つてきます」とレイと一緒にいました

一人行つた後三人はつぶやきました

「こんな時間はもう来ないだろつ、使徒と呼ばれる怪物に、ゼーレ
という

権力にそして父親であるゲンドウとの死力を尽くした闘いが待つて
いる
だからこそ、一人には、今日は貴重な残された時間、精いっぱい樂
しんできてほしい」

しんみりと語り合つ三人でした

リニアに載つて2時間後目的地に着きました

そこは「第一東京ネズミーランド」そこは第一東京市に新しく出来たテーマパークです

ネズミのネズミー君ミーさんがシンボルのテーマパークです
出来たてなのでチケットもなかなか手に入らないのですが
そこは、申し訳ありませんがネルフの権力でというか冬月さんにお願いして手に入れもらいました

それも一日アトラクション、レストラン、ショッピング、パレード、ショーが最優先でできる

ウルトラスープレミアムチケット、数枚もない超限定のチケットです

「シンジ君ここは?」

「ここは新しく出来た遊園地、ネットを調べたらヒットして前もって入園チケットを手に入れたんだ」

「ありがとうございますシンジ君」

「レイの笑顔が見れてうれしいよ」

まずはあれに載らう「行こうレイ」

シンジ君はビックサンデーマウンテンにレイちゃん連れて行きに行きました

西部劇に出てくるような機関車にのつてスリル満点の乗り物です
「れいは悲鳴を上げて僕につかまつていきました、悲鳴を上げるレイ、
かわいかつた」

十分楽しんだ後、次に乗ったものは蒸気船、マークター号水上をゆっくり進む蒸気船です

「シンジ君とゆっくり川面を流れる船に揺られてのつていましたシンジ君優しそうな笑顔です、頬もしいと感じました」

次に乗つたのは、空飛ぶボンタ、空中を遊泳する乗り物です
「レイはなんか怖そうにします、行き成り乗り物が浮き上がった、そしてゆっくりまわり始めて、でも楽しそうでした」

そして次は

トンテレウのフォアリートールホールにいきました
「中はおどぎ話のお城を模し王様や女王様、お姫様が踊つてる絵がかいてありました
素敵なお城で中で本当にシンジ君と踊つてるような錯覚に陥りました
そしてガラスの靴が飾つてありもう言葉が出ないです」

そしてシンジ君がレストランに予約してるとこにそこに行きました
「ムーンクリスタルパレス」というレストランで、素敵なレストランです

バイキング形式なので好きな料理を自分で選んで食べるといもの
です
「もしかして私がお肉食べられないのを覚えていてくれたんですね、
私のことそこまで理解してくれるシンジ君、私はもっと好きになつていきました」

「素敵なお城で中で本当にシンジ君と踊つてるような錯覚に陥りました
そしてガラスの靴が飾つてありもう言葉が出ないです」

食事した後はまたアトラクションやいろんなお部屋など見て回り
素敵な時間を過ごした一人、周囲が暗く夜のとばりが下りるころ
ネズミーランド最大のショーアゲンチが始まりました

ネズミーキャッスルに火がともり素敵な音楽が流れ始め
ネズミー君や、ミーさんがトンデレラやガッティーとともに現れてダンスや歌を披露し

そして夏なのに雪が舞い降りて幻想的な雰囲気が漂い始め
ショー最大のイベントであるは打ち上げ花火が始まりました

「私は花火が上がるたびきれい、きれいといいシンジ君と見上げて
いました、」

「レイの横顔が花火に照らされて幻想的な美しさを醸し出していま
した
絶対に守るレイのこの笑顔を改めて誓いました」

ショーアゲンチも終わり閉演時間が来ました

「次のまた来ようレイ」「うん」絶対に

そしてリニアに乗り第三東京市に帰つてきました

そして帰り道月が見える公園に差しかかり、シンジ君がレイに言いました

「レイ、君を愛してる、この命尽きるまでレイを守る」

「シンジ君、私もあるたを愛してる、この命尽きるまでシンジ君を
守る」

そして月の光に照らされて一人の影が重なっていた……

翌朝、 、 、 、 二人に昨日の出来事が写真になつて届けられました
シンジ様、 レイ様お幸せにといふ言葉とともに

天地君鷲羽ちゃんの元にも写真が届けられました
それは月に照らされた二人の、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 これいじょ
は言わぬが花ですね

ポート（後書き）

シンジ君とレイちゃんのポートレートのお話でした
一人の誓いとともに

ではまた次のお話をお待ちください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9742z/>

新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

2012年1月8日19時50分発行